

平成 31 年 度

事業報告書

(事業報告 ・ 附属明細書)

自：平成 31 年 4 月 1 日

至：令和 2 年 3 月 31 日

社会福祉法人 つどいの家

－ 目 次 －

I	法人経営に関する事項	1
	1. はじめに／理事長総括	1
	2. 経営ビジョン実現に向けての取り組みと評価	2
	3. 財務状況・財産状況	4
	4. 広報・啓発活動に対する取り組み	4
	5. その他の法人経営に関する取り組み	5
II	法人の現況に関する事項	7
	1. 法人概要	7
	2. 役員・評議員等の状況	8
	3. 理事会開催の状況	10
	4. 評議員会開催の状況	11
	5. 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況	12
	6. 監査等の状況	13
	7. 運営事業の状況及び事業利用者の推移	13
	8. 地域における公益的な取組の状況	14
	9. 職員の状況	14
III	事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）	17
	1. 仙台つどいの家	17
	2. つどいの家・コペル	19
	3. つどいの家・アプリ	22
	4. 八木山つどいの家	25
	5. 若林障害者福祉センター（生活介護等）	28
	6. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」	30
	7. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」	33
	8. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」	35
	9. グループホーム（共同生活援助事業）	38
IV	参考資料	41
	1. 利用実績（日中活動支援事業部門）	42
	2. 利用実績（地域生活支援事業部門）	46
	3. 寄附金受領状況	58
	4. 補助金・助成金受領状況	60
	5. 地域における公益的な取り組みに関する状況等	61
	6. 法人会議・委員会実施状況	62

I 平成31年度 法人経営に関する事項

1. はじめに / 理事長総括

税の使い方、使われ方について何かと考えさせられることの多かったこの一年でした。個人の責任を超えた困難な状況を社会全体で支援しようとするのが福祉施策の原則であり、そのために税をきちんと投入すべきとは思っているものの、そう言ってもつどいの家の経営状況が改善する訳もなく、まずは、既存の制度を調べ上げ、フルに活用して財源を確保しなければなりません。そのため、法人内での事業所再編等によりホームヘルプ事業の特定事業所加算を獲得するなど収入増加策を講じてきました。反面、機能集約に伴う課題も現れてきており、両立させるための対応策を早急に検討する必要があります。

レスパイト事業においては、社会経済環境の変化に対応するため介護人の労働者性を認めることとした結果人件費が増高し、現在の枠組みでは事業継続困難なため、運営の自由度は狭まるものの給付費事業とする等の対応が必要となっており、市及び関係団体と早急に協議し、必要な条件整備を行うこととしました。

その他法人の活動として、しょうがい理解促進のための啓発活動の一環として映画「道草」の上映及び監督とのトークセッションを行った他、地域住民との交流機会創出のための各施設での活動を重視して取り組みました。一方、グループホーム等地域生活のための次なる資源づくりについては、優先順位をつけ計画の熟度を上げるに至らなかったことを反省しなければなりません。

年度末から新型コロナウイルスが猛威を振るっています。現状では、つどいの家においては掠める事例は散見されるものの感染者等は発生しておらず、何とかほぼ通常通りの運営ができていますが、我が国の対応が諸外国から多くの批判を受けているように、もしかしたら私たちが報道に接し得ている情報は「大本営発表」なのかもしれません。更に大きなものとも想定されるこの秋、冬の第二波、第三波への備えも必要になっています。様々な会議や研修も制限され、一歩前に踏み出すことも躊躇せざるを得ない状況もありますが、ピンチをチャンスと捉え、WEB会議システムの導入や日々の打ち合わせの分散実施等仕事の仕方を改めるべきは改め、より強靱な事業運営体制を築くことを通じて、法人の基本理念具現化のための事業継続を図ってまいります。

2. 経営ビジョン実現に向けての取り組みと評価

経営ビジョン 1 しょうがいのある人の差別をなくし、地域生活に必要な資源を生み出す

- 法人内の「権利擁護・虐待防止委員会」を中心に先に定めたガイドラインに基づき、日々の支援の振り返りの機会を設けながら、権利擁護等に関する職員の意識向上に努めた。
- また、利用者の意思決定支援の大切さを日常の業務や研修など様々な場面のなかで共有するとともに、外部へ情報発信や地域住民等との顔の見える関係づくりを行いながらしょうがい理解の促進にも努めた。
- 多様で複雑な課題を有する利用者とその家族への支援や関わりにおいては、法人内のみならず行政や地域包括支援センターなど多岐にわたって他機関との連携強化に努め、しょうがいのある人がその人らしく豊かに地域生活を送ることができるよう各所で取り組んできた。
- 宮城県からの指定を受け、介護職員初任者研修を事業化させ、十数名の受講者があった。今後事業継続の維持・向上と新たな福祉人材の担い手を獲得する意味でも本事業の広報活動を更に拡充する必要がある。
- しょうがいのある人の地域生活に必要な新たな資源創出や既存事業の持続可能性を高めるために、管理者及び主任級職員を中心に経営戦略検討会議を構成した。他機関の専門相談や地域生活諮問委員からの助言等をいただきながら、法人内の実態把握や社会課題の認識、理解を深めながら、法人中期経営計画の立案に向けて取り組んだ。

経営ビジョン 2 地域社会の支援を受け、参画を促し、法人で培ったものを還元する福祉の街づくり、共生社会の実現をめざす

- 共生社会の実現としょうがい理解のための啓発活動の一環として上映会「この街で暮らす～道草～」を実施した。参加者からも仙台でもこのような暮らしを実現させたいなどと好評だった。
- 例年通り各事業所においては、地域住民との交流の機会を創出し、施設資源を活かした行事やイベントを積極的に行うなど、それぞれの地域事情や特性に応じて取り組みを多数行った。
- 法人の基本理念や活動等への理解と共感を得るために、広報誌の発行やホームページの更新を適宜行い、特に寄附拡充のためのページを全面的にリニューアルするなど、地域社会に参画を促す情報発信にも努めた。
- また、社会貢献活動に取り組まれている一般企業からの寄附や支援については、有難いことに年々増加をみせている。しょうがい理解の促進や地域課題の解決に向け、他のセクターや多様な市民活動団体等との協働や連携をより一層深められるよう、なお取り組んでいきたい。

経営ビジョン 3 地域の人や利用者をはじめ社会に信用され、選ばれる存在であり続ける

- 各所毎にケース会議に力を入ると共に、相談事業、事業運営会議等を通して、横断的に地域資源と情報交換をしながら、本人の意思を大切に支援に努めている。
- 事業所が所在する地域の町内会活動にも積極的に参加し、又は役割を事業所として担うなど、地域住民との交流を深めながら信頼性を高める取り組みを行った。
- 若年層からも選ばれる存在であり続けるために、大学への働きかけを密に行い、学生にしょうがい福祉に対する興味関心や理解向上に繋がる取り組みを様々な機会や媒体を通じて行った。

経営ビジョン 4 経営基盤をゆるぎないものにする

- 消費税率の引き上げや最低賃金の改定及び（特定処遇改善等に関連した）障害福祉サービス等の報酬改定に対応するため、職員間での情報共有と課題の可視化・顕在化に努め、必要な対応を行うことにより財務上の赤字転落を回避することができた。
- また、居宅介護等事業や相談支援事業所においては法人内での事業所再編を行うことによって、特定事業所加算の取得又はランクアップとなり、財務改善及び事業の継続性・安定性を高めることに繋がった。反面、機能集約したことによる弊害（例えば、抱える業務量の増大や支援対象エリアが広がったことによる職員間の連携や情報共有の困難性が増したなど）も顕著となり、早期に課題解決のための振り返りが必要である。
- 他方、前述の居宅介護等事業の再編にあわせ、グループホーム管理センターを構えることに繋がり、これまで点在していた管理者やサービス管理責任者、事務員など職員間の連携が格段に向上した。
- 法人内防災連絡体制の強化を図るため、従前の事業所への無線機配備に加え、IPAD を活用した連絡手段を構築した。法人の危機・リスク管理の強化を図るため、外部研修等への積極的な参加により知識習得にも努めている。
- 平成 10 年度に制度化され、以降継続して事業運営を行ってきた仙台市障害者家族支援等推進事業（レスパイト事業）における介護人の就業実態が労基署より指導され、抜本的な見直し（有償ボランティアとしての考え方から労働者性に転換）を行うこととなった。次年度以降、事業継続には補助金の大幅な増額又は事業スキームの見直しなど行政支援が欠かせない。
- 台風 19 号による全国的な被害や新型コロナウイルス感染拡大等により、移動支援事業を中心に利用実績の低下に繋がるなどその影響は大きい。

経営ビジョン 5 職員も仕事を通じて自己実現ができる環境をつくる

- 法人内・外部研修に積極的に参加し、個々の知識習得やスキルアップを図った。
- また、業務の効率化に向けた取り組みを法人全体及び事業所ごとに検討を重ね、特に年休消化率の向上など職員の意識改革にも努めた。
- 他方、（前述のとおり）介護職員初任者研修の事業化に反し、法人独自の資格取得奨励助成金を活用数が低調。内部研修も都度情勢に応じて継続実施しているが、マンネリ化を防止する観点からも職員研修の在り方や内容等を精査し、再構築する必要がある。

3. 財務状況・財産状況

(1) 財務状況の推移

(単位：千円)

勘定科目	平成 31 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	前年度比
サービス活動収益(1)	850,521	842,412	809,122	1.0 %
サービス活動費用(2)	851,910	877,047	837,680	△ 2.9 %
サービス活動増減差額(3=1-2)	△ 1,389	△ 34,635	△ 28,558	－ %
サービス活動外増減差額(4)	10,987	11,548	12,528	△ 4.9 %
経常増減差額(5=3+4)	9,598	△ 23,087	△ 16,030	－ %
特別増減差額(6)	51,882	12,924	12,746	301.0 %
当期活動増減差額(7=5+6)	61,480	△ 10,163	△ 3,284	－ %

(2) 資産・負債等の推移

(単位：千円)

勘定科目	平成 31 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	前年度比
資産合計	1,224,697	1,192,058	1,212,163	2.7 %
負債合計	211,861	210,210	186,895	0.8 %
純資産合計	1,012,836	981,848	1,025,268	3.2 %

(3) 借入金の状況

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

借入先	借入用途	元金残高(千円)
独立行政法人 福祉医療機構	つどいの家・コペル建設資金	960
独立行政法人 福祉医療機構	ひかりはうす(GH)不動産取得・改修資金	5,369
独立行政法人 福祉医療機構	アプリ土地取得・建設資金	45,132
独立行政法人 福祉医療機構	仙台つどいの家災害復旧資金	30,528
七十七銀行	つどいの家・コペル設備整備資金	13,926
(借入金 合計)		95,915

※平成 31 年度新規借入額：15,000 千円

(前年度より 3,810 千円増)

(4) 補助金・寄附金等の状況

(単位：千円)

補助種別	平成 31 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	前年度比
事業運営費	84,518	92,779	92,354	△ 8.9 %
人件費(職員加配)	27,501	35,012	33,164	△ 21.5 %
施設設備整備等	0	1,900	7,791	－ %
その他	20	34	47	△ 41.2 %
寄附金	74,980	25,447	23,051	19.4 %

※詳細は、「IV 参考資料」に掲載

4. 広報・啓発活動に関する取り組み

(1) 法人広報誌発行

広報誌「つどい」第 28 号 令和元年 8 月 31 日発行(発行部数：1,400 部)

(テーマ) 平成 30 年度を振り返って/事業報告・決算報告など

同 第 29 号 令和 2 年 2 月 29 日発行（発行部数：1,400 部）
（テーマ）ボランティアについて

(2) ホームページによる情報開示と支援者との継続的な関係性構築に向けて

従来通り、社会福祉法並びに法人定款に規定する福祉サービスの質の向上と事業経営の透明性の確保を図るため、法人の現況報告書や財務諸表等の情報をホームページ上で開示するのみならず、スマートフォンの普及に伴い、Web 媒体を通して、外部からの共感や様々な支援を得ること、または求職者の裾野を広げ、人材確保に繋げることを目的に法人及び事業運営に係る取り組みを積極的に発信しました。

また、法人の基本理念や活動等に興味関心を持ち、共感と一体感を生み出すことにより、多くの支援者の獲得を進め、継続的な関係性を構築していくために、事務職員を中心に寄付金募集の在り方や訴求力を高めるための方法等を検証し、寄付金募集ページの大幅なリニューアルを行いました。（寄付金受領状況は参考資料Ⅳに掲載）。

(3) 啓発活動

しょうがいのある方の人権と差別のない社会の構築を目指す法人の基本理念に従い、社会への啓発活動の一環として以下の上映会を開催（つどいの家後援会との共催）しました。

内 容 宍戸大裕監督作品

「この街で暮らす ～道草～」の上映及び監督とのトークセッション

日 時 令和元年 11 月 22 日（木） ※3 回上映

場 所 せんだいメディアテーク スタジオシアター

入場者数 167 名

アンケート回収率 38.9% (65 名)

成 果 等（参加者からの意見より/アンケート一部抜粋）

- ・「地域の中で繋がりを持ち、本人が生きる価値が発揮されるよう支援できたら良いなと思った」、「施設の職員を長くしているとやはり世界が狭くなっているなど感じた」、「一人ひとりのすべての個(子)のことをすべて受け止めていくことが大切だと感じた」など
- ・その他、法人ホームページ等により公表

5. その他の法人経営に関する取り組み

(1) 福祉サービス等における苦情対応など

【苦情解決委員会実施状況】

日 時	協議内容	出席者数
第 1 回 R1.11.5（火）	令和元年度上半期（4～9 月）における苦情受付内容および解決に至った経過検証など	第三者委員 1 名／2 名 受付担当者 4 名／9 名 解決責任者 7 名／8 名
第 2 回 R2.3.18（木）	令和元年度下半期（10～3 月）における苦情受付内容および解決に至った経過検証など	第三者委員 3 名／3 名 受付担当者 5 名／9 名 解決責任者 7 名／8 名

【苦情対応の状況】

事業所名	主たる内容	解決有無
仙台つどいの家	・大型台風接近時にバザーを開催にしたことに対する苦情／近隣 ・利用者が無断で病院内にイベントのチラシを配布したことに対する苦情／近隣	解決済
つどいの家・アプリ	送迎時の駐停車場所について苦情／近隣	解決済
ぴぽっと南光台	無断駐車に対する苦情／近隣	解決済
グループホーム	早朝の利用者の声について苦情／近隣	解決済
※合計 5 件 （内訳） 事業所の近隣住民からの苦情 5 件		

(2) 中期経営計画の策定に向けた取り組み

社会福祉法人制度改革が行われた背景にもあるとおり、社会福祉法人が社会的に果たすべき役割や責務が問われ、法人としての公益性や非営利性に相応しい組織の基盤構築や経営の透明性確保、地域における公益的な取り組みや質の高い人材の確保・育成が一層求められています。

こうした情勢下にあって、法人として長期的な視点で様々な難題に対応しようと、平成 29 年度に「基本構想 2017」を策定し、同年に開催した法人設立 25 周年記念イベントの際に参加者に発表するに至りました。それ以降、直面する財務上の課題解決を優先的に協議し、新たな加算取得や事業再編等に取り組んできました。

法人を取り巻く様々な社会課題や福祉ニーズに対応し、組織としての持続可能性を高めていくためにも、多角的・客観的な分析に基づいた経営戦略を策定する必要があり、管理職者及び主任級職員を中心に外部専門相談等を活用しながら一年を通して検討を重ねてきました。新型コロナウイルス感染拡大による対応などもあって年度内完成には至りませんでしたので、継続課題として次年度も引き続き取り組んで参ります。

<具体的な取り組み>

- ・経営戦略検討会議（構成員 16 名） 年 8 回開催
- ・宮城県社会福祉協議会による専門相談事業の活用 年 2 回
- ・法人内「地域生活支援諮問委員会」からの意見集約 年 2 回
- ・後援会役員等との会員構成の見直しを含めた諸課題に対する意見交換 年 2 回
- ・理事会（令和 2 年 3 月開催）に中間案を提示

(3) 介護職員初任者研修事業の実施

財務上の課題や人材不足等に対応するため、一昨年よりプロジェクト委員会を法人内に構成し、介護職員初任者研修の事業化について検証してきました。令和元年 5 月に県の指定を受けることができ、「つどいの家 介護員養成研修事業（通信）」として 3 回（クール）研修会を実施しました。計 18 名の方々（職員受講者 13 名、外部受講者 4 名、利用者保護者 1 名）に受講頂いております。修了生の中には研修後に、当法人のイベントへ参加し、又はレスパイト事業の介護人登録をする方もおり、本研修の目的の 1 つである「障がいのある方への理解」に繋げることができました。今後も人材の確保のみならず、一般市民等多くの方々にしょうがい分野に興味を持ってもらい、理解を深めてもらえるよう努めていきます。

(4) その他事務手続き

◆ 登記に関する事項

- ・資産総額変更登記 (6/28)
- ・代表者重任登記 (6/28)

◆ 行政手続き

- ・介護員養成研修事業者指定/宮城県 (5/13 認定)
- ・社会福祉法人現況報告書等提出/仙台市 (6/28)
- ・定款変更認可申請/仙台市 (7/1 認可)

◆ 仙台市長への要望書提出

(令和元年9月11日付提出)

1. 重いしょうがいのある人も安心して通うことができる事業所運営の仕組み作りについて
2. 福祉人材の確保と啓発活動の促進について(官民協働の取組み)
3. 重いしょうがいのある・医療的ケアのある人の利用できるGH運営の仕組み作りについて
4. 仙台市の地域生活支援事業のあり方について
 - (1) 相談支援事業や市単独事業職員に対する処遇改善措置
 - (2) 仙台市青葉区への委託相談支援事業所の増設
 - (3) 障害者家族支援等推進事業の要綱改正
5. 移動支援事業における補助単価の見直しについて
6. 利用者の人権を尊重した求人活動ができる環境の整備に向けて

以上が、法人より提出した要望事項である。

うち、2については、仙台市知的障害者関係団体連絡協議会としても同時に提出

◆ その他

- ・消費税率引上げに伴う対応
- ・報酬改定(特定処遇改善加算創設)への対応
- ・最低賃金改定に伴う対応
- ・働き方改革関連法(2020年4月)に伴う対応

◆ 契約執行に関する事項

(1) コペル衛生設備等改修工事

- ・設備工事
 - ※指名競争入札(令和元年5月13日開札)
 - ※7社中4社応札
 - ※落札業者:㈱アトマックス
 - ※契約日:令和元年5月20日
 - ※契約金額:24,192,000円(税込)
- ・監理業務
 - ※随意契約
 - ※契約日:平成31年4月12日
 - ※委託業者:㈱環総合設計東北支社
 - ※契約金額:907,200円(税込)

◆ 民間団体等助成事業への申請状況

- ・日本財団福祉車両(八木山送迎車両) …採択
- ・日本郵便年賀寄附金配分事業(P南光台送迎車両) …不採択
- ・ALSOK福祉車両助成(コペル送迎車両) …不採択
- ・一財)松扇会社会福祉事業助成(グループホーム給湯器交換) …不採択
- ・公財)木口福祉財団(コペル送迎車両) …未定

◆ 法人内部規程・基準等の整備

- ・定款 /改正
- ・就業規則 /改正
- ・賃金規程 /改正
- ・評議員等報酬および費用弁償規程 /改正
- ・(各事業)運営規程 /改正
- ・苦情解決第三者委員設置規程 /改正
- ・地域生活支援諮問委員会実施要綱 /改正

II 法人の現況に関する事項

1 法人概要

- (1) 法人名称 社会福祉法人 つどいの家
- (2) 主たる事務所の所在地 仙台市若林区上飯田1丁目17番58号
- (3) 事業種別

第2種社会福祉事業	障害福祉サービス事業の経営 (生活介護、自立訓練(生活訓練)、居宅介護等、指定特定相談等、共同生活援助) 相談支援事業の経営 障害児等療育支援事業の経営
-----------	---

	移動支援事業の経営 障害児通所支援事業の経営
公益事業	障害者家族支援等推進事業 福祉有償運送事業 介護員養成研修事業（新）

(4) 事業の種類及び名称など（令和2年3月31日現在）

事業所名称	所在地(仙台市)	管理者	実施事業	定 員	登録数
仙台つどいの家	宮城野区幸町 3	山口 収	生活介護	30 名	37 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	6 名
つどいの家・コペル	若林区上飯田 1	福地慎治	生活介護	40 名	43 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	8 名
つどいの家・アプリ	太白区山田本町	大累貴司	生活介護	30 名	32 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	7 名
八木山つどいの家	太白区八木山本町 1	佐々木健	生活介護	20 名	14 名
若林障害者 福祉センター	若林区遠見塚東	小原弥生	生活介護	9 名	13 名
			自立訓練(生活訓練)	6 名	0 名
ぴぼっと南光台	泉区南光台 3	佐藤秋男	居宅介護等	—	144 名
			障害者家族支援等	—	92 名
			福祉有償運送	—	8 名
ぴぼっと支倉	青葉区支倉町	檜山智彦	指定特定相談	—	219 名
			指定障害児相談	—	74 名
			指定一般相談	—	0 名
			委託相談支援	—	380 名
			障害者家族支援等	—	95 名
ピボット若林	若林区遠見塚 2	飯田克也	指定特定相談	—	121 名
			指定障害児相談	—	6 名
			指定一般相談	—	0 名
			委託相談支援	—	49 名
			居宅介護等	—	20 名
			障害者家族支援等	—	85 名
ひこうき雲	若林区沖野 3、他	飯田克也	共同生活援助	24 名	24 名

2 役員・評議員等の状況（平成31年度内就任者の状況/令和2年3月31日現在）

(1) 理事・監事（理事定数：6名 監事：2名）

役職名	氏 名	兼職状況	特殊関係等	理事会出席状況	備 考
理 事 長	下郡山 和子		なし	5 回／5 回(100%)	
常務理事	佐 藤 吉 久	職員・総務部長	なし	5 回／5 回(100%)	
理 事	佐 藤 清	市外郭団体理事長	なし	4 回／5 回(80%)	

理 事	菅 井 裕 行	大学教授	なし	3 回／5 回 (60%)	
理 事	山 口 収	職員・日中活動支援部長	なし	5 回／5 回 (100%)	
理 事	飯 田 克 也	職員・地域生活支援部長	なし	5 回／5 回 (100%)	
監 事	三 浦 俊 一	金融持株会社監査役等	なし	4 回／5 回 (80%)	
監 事	大 谷 津 敏	税理士	なし	2 回／4 回 (50%)	R1.6 月就任
監 事	内 出 琢 也	税理士	なし	1 回／1 回 (100%)	R1.6 月退任

*任期：令和元年 6 月 25 日から令和 3 年 6 月の定時評議員会終結の時まで

(注) 社会福祉法第 40 条第 4 項及び第 5 項並びに社会福祉法施行規則第 2 条の 7 及び第 2 条の 8 に規定する欠格事由に該当する者又は親族関係にあるなどの特殊の関係にある者の有無をいう。

(2) 評議員

(評議員定数：7 名)

氏 名	兼務状況	特殊関係等	評議員会出席状況	備考
高 橋 治	他法人理事長	なし	5 回／5 回 (100%)	
細 井 実	他法人理事長	なし	5 回／5 回 (100%)	
川 住 隆 一	大学教授	なし	1 回／4 回 (25%)	R1.9 月退任
久保野恵美子	大学院教授	なし	4 回／5 回 (80%)	
萩野谷 和裕	県立病院副院長・医師	なし	2 回／5 回 (40%)	
中 山 伸 枝	市教育局嘱託職員	なし	4 回／5 回 (80%)	
井 上 博	他法人理事長	なし	3 回／5 回 (60%)	
渡 邊 好 孝	県理学療法士会 会長	なし	1 回／1 回 (100%)	R2.2 月就任
※監事の評議員会出席状況				
三 浦 俊 一	金融持株会社監査役	なし	4 回／4 回 (100%)	
大 谷 津 敏	税理士	なし	3 回／4 回 (75%)	R1.6 月就任
内 出 琢 也	税理士	なし	0 回／1 回 (0%)	R1.6 月退任

*評議員任期：平成 29 年 4 月 1 日から平成 33 年（令和 3 年）6 月の定時評議員会の終結の時まで

(3) 評議員選任・解任委員

(委員定数：3 名)

氏 名	区分	委員会出席状況	備 考
三 浦 俊 一	監 事	1 回／1 回 (100%)	
小 林 龍 之	事務職員	1 回／1 回 (100%)	※互選により委員長就任
後 藤 道 子	外部委員	1 回／1 回 (100%)	

*任期：平成 29 年 1 月 28 日から平成 33 年 6 月の定時評議員会の終結の時まで

(4) 地域生活支援諮問委員会

氏 名	区 分	委員会出席状況	備 考
下 郡 山 徹 一	有 識 者	2 回／2 回 (100%)	前理事長
阿 部 達	有 識 者	2 回／2 回 (100%)	前理事
佐々木 明子	地 域 代 表	2 回／2 回 (100%)	宮城県障害者福祉センター、他 施設長
猪 狩 公 子	地 域 代 表	0 回／2 回 (0%)	太白区山田町内会副会長
市 橋 章 子	地 域 代 表	2 回／2 回 (100%)	食事サービスふたばの会代表

岡 本 浩 行	地 域 代 表	2 回／2 回(100%)	沖野学園学校支援地域本部スーパーバイザー
高 橋 和	利用者家族	1 回／2 回(50%)	八木山つどいの家利用者の家族
阿 部 美 佐	利用者家族	2 回／2 回(100%)	仙台つどいの家利用者の家族
安 室 む つ み	利用者家族	2 回／2 回(100%)	つどいの家・コペル利用者の家族
橋 本 幸 子	利用者家族	0 回／2 回(0%)	つどいの家・アプリ利用者の家族

*任期：平成 31 年 4 月 1 日から令和 3 年 6 月の定時評議員会終結の時まで

3 理事会開催の状況

月 日	議案内容	採決	役員出席
第 1 回 R1.6.12 (水)	第 1 号 平成 29 年度事業報告に関する件	可決	理事 6 名 監事 2 名
	第 2 号 平成 29 年度決算報告及び監査報告に関する件	可決	
	第 3 号 福祉サービスに関する苦情解決第三者委員設置規程の一部改正案に関する件 《概要》任期満了前に退任した委員の任期について提案。	可決	
	第 4 号 苦情解決第三者委員の選任に関する件 《概要》退任委員の後任として村山和枝氏を提案。	可決	
	第 5 号 地域生活支援諮問委員会実施要綱の一部改正案に関する件 《概要》委員会の議事進行を委員会事務局が行うことを提案。	可決	
	第 6 号 地域生活支援諮問委員の選任に関する件	可決	
	第 7 号 評議員等報酬および費用弁償規程の一部改正案に関する件 《概要》役員報酬の引き上げについて提案。	可決	
	第 8 号 賃金規程の一部改正案に関する件 《概要》介護職員初任者研修の講師に時給 1,500 円の手当支給を提案。	可決	
	第 9 号 定時評議員会の招集等に関する件 《概要》平成 30 年度事業報告、平成 30 年度決算報告及び監査報告、役員の選任、評議員等報酬および費用弁償規程を上申するため。	可決	
第 2 回 R1.6.25 (火)	第 1 号 管理者の人事に関する件 《概要》理事長、常務理事の選任について提案	可決	理事 5 名 監事 1 名
第 3 回 R1.9.27 (金)	第 1 号 就業規則の一部改正案に関する件 《概要》初任者研修の講師手当を非常勤職員にも支給すること、世話人業務手当の廃止、ヘルパー業務手当を時給に合算することについて提案。	可決	理事 4 名 監事 1 名
	第 2 号 令和元年度第一次補正予算案に関する件	可決	
	第 3 号 令和元年度第 3 回評議員会の招集等に関する件 《概要》令和元年度第一次補正予算案について提案。	可決	
第 4 回 R2.1.23 (木)	第 1 号 苦情解決第三者委員の選任に関する件 《概要》退任委員の後任選任について	可決	理事 5 名 監事 2 名
	第 2 号 半期決算報告に関する件	可決	
	第 3 号 賃金規程の改正案に関する件 《概要》常勤職員給与の一律 20,000 円引き上げについて提案。	可決	
	第 4 号 第二次補正予算案に関する件	可決	

	第5号 評議員選任候補者の推薦に関する件 《概要》退任した評議員の後任候補者の選任について	可決	
	第6号 令和元年度第4回評議員会の招集等に関する件 《概要》令和元年度第二次補正予算案について提案。	可決	
第5回 R2.3.16（月）	第1号 苦情解決第三者委員の任期満了に伴う選任に関する件 《概要》現委員の再任について提案。	可決	理事5名 監事1名
	第2号 管理職人事案に関する件	可決	
	第3号 賃金規程の一部改正案に関する件 《概要》公共交通機関で通勤する場合の手当ての引き上げ、常勤職員の通勤手当の算出方法の改正、職能基準表の改正について提案。	可決	
	第4号 運営規程の一部改正案に関する件 《概要》人員配置、給食食材料費の変更について提案	可決	
	第5号 評議員等報酬および費用弁償規程の一部改正案に関する件 《概要》会議等の職務に従事する際の非常勤理事の報酬について提案。	可決	
	第6号 就業規則の一部改正案に関する件 《概要》年次有給休暇の付与日の統一について提案。	可決	
	第7号 令和元年度第三次補正予算案に関する件	可決	
	第8号 令和2年度事業計画案に関する件	可決	
	第9号 令和2年度当初予算案に関する件 《概要》総収入1,169,828千円、総支出1,169,515千円（収支差額1,114千円）の予算編成案について提案。	可決	
	第10号 理事長の辞任に伴う選任に関する件 《概要》理事長の退任に伴い、新理事長として佐藤清理事が選任。	可決	
	第11号 令和元年度第5回評議員会の招集等に関する件 《概要》令和元年度第三次補正予算案、令和2年度事業計画案、令和2年度当初予算案、評議員等報酬および費用弁償規程の一部改正案について提案	可決	

4 評議員会開催の状況

月 日	議案内容	採決	出席者数
第1回 H31.4.26（金） （決議の省略）	第1号 定款の一部改正案に関する件 《概要》理事長・常務理事の職務執行状況報告の期間の変更、介護職員初任者研修事業新規創設に伴う文言追加について提案。	可決	（書面同意） 評議員 7名
第2回（定時） R1.6.25（火）	第1号 平成30年度事業報告に関する件	可決	評議員 5名 監事 2名
	第2号 平成30年度決算報告及び監査報告に関する件	可決	
	第3号 役員の選任に関する件	可決	
	第4号 評議員等報酬および費用弁償規程の一部改正に関する件	可決	
第3回 R1.10.7（月）	第1号 令和元年度第一次補正予算案に関する件	可決	評議員 4名 監事 2名
第4回 R2.1.29（水）	第1号 令和元年度第2次補正予算案に関する件	可決	評議員 4名 監事 1名
第5回 R2.3.28（土）	第1号 令和元年度第三次補正予算案に関する件	可決	評議員 5名 監事 2名
	第2号 令和2年度事業計画案に関する件	可決	

	第3号 令和2年度当初予算案に関する件	可決	
	第4号 評議員等報酬および費用弁償規程の一部改正案に関する件	可決	

5 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況

(1) 評議員選任・解任委員会

月 日	議案内容	出席者数
第1回 R2.2.20 (木)	第1号 委員長の互選に関する件 《概要》互選による委員長選任について	監 事 1 名 事務職員 1 名 外部委員 1 名
	第2号 評議員の選任・解任に関する件 《概要》評議員候補者の選任について	

(2) 地域生活支援諮問委員会

月 日	報告事項他	出席者数
第1回 R1.8.1 (木)	(1) 今年度の地域生活支援諮問委員会について (進め方や報告事項の共有など)	諮問委員 8 名
第2回 R1.11.11 (月)	(1) 法人を取り巻く諸課題（外部環境）についての意見交換 (2) 地域及び各施設等における話題等の提供	諮問委員 7 名
第3回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	

(3) その他の会議・委員会

部門	名 称	実施回数	部門	名 称	実施回数
主要会議	経営会議	12 回	経営部門	事業運営会議	12 回
	経営戦略検討会議	8 回		防災委員会	7 回
	人事委員会	22 回		職員研修委員会	6 回
	法人衛生委員会	9 回			
	コペル衛生委員会	12 回	事業運営部門	日中活動支援事業部連絡会議	11 回
	権利擁護・虐待防止委員会	4 回		地域生活支援事業部連絡会議	11 回
情報交換調整	食事サービス従事者連絡会	2 回		レスパイト事業検討会議	11 回
	PT・OT 連絡会	1 回		ヘルパー事業検討会議	3 回
	看護師連絡会	4 回		相談支援事業検討会議	3 回
	サービス管理責任者連絡会	3 回		日中活動支援事業検討会議	5 回
	日中活動チーフ連絡会	2 回		居住支援等事業検討会議	2 回
	南北グループホーム連絡会	10 回	※主たる内容や成果又は次年度への課題等については別添参考資料参照		
	総務ミーティング	34 回			

6 監査等の状況

(1) 監事監査

実施日	監査内容	監査員	指摘事項等
R1.5.18 (土)	事業年度（平成 30 年度）に係る業務執行状況及び財産状況	三浦監事 内出監事	財務基盤の安定化や職員確保に向けた取組みの継続実施。寄付募集の方法、仕組み等の再構築に向けた取組みなど
R1.11.28 (木)	平成 31 年度上半期決算に係る会計処理等進捗確認など	大谷津 監事	賞与引当金の計上、市監査で口頭指摘のあった事項の改善方法等 など

(2) 外部機関等による監査など

項 目	監査・調査内容	監査員	(文書) 指摘事項等
行政 監査等	法人一般監査 ※実施なし	—	
	集団指導 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	—	
	労働基準監督署 立入検査	監督官 1 名	介護人に関し、従前の有償ボランティアを雇用化し、労働基準法に適用させて管理すること
	※その他事業所実地監査については実施なし		

7 運営事業の状況及び事業利用者の推移

実施事業	平成 31 年度 利用総数	平成 30 年度 利用総数	平成 29 年度 利用総数	前年度比
生活介護	27,500 (名)	27,753 (名)	27,330 (名)	△ 0.9%
特例生活介護・児童発達支援	2,760 (名)	3,253 (名)	3,117 (名)	△ 15.2%
自立訓練(生活訓練)	0 (名)	41 (名)	54 (名)	— %
居宅介護	21,358.5 (時間)	18,057.5 (時間)	16,676.0 (時間)	18.3%
重度訪問介護	1,382.0 (時間)	1,470.0 (時間)	1,380.5 (時間)	△ 6.0%
行動援護	0.0 (時間)	157.0 (時間)	256.0 (時間)	— %
同行援護	940.5 (時間)	626.5 (時間)	544.5 (時間)	50.1%
移動支援	11,505.0 (時間)	13,628.5 (時間)	13,964.0 (時間)	△ 15.6%
障害者家族支援等推進事業	23,650 (時間)	27,774 (時間)	26,918 (時間)	△ 14.8%
指定特定相談支援 (計画)	417 (件)	430 (件)	385 (件)	△ 3.0%
〃 (モニタリング)	1,172 (件)	867 (件)	739 (件)	35.2%
委託相談支援事業	4,342 (件)	3,516 (件)	2,870 (件)	23.5%
障害児等療育支援事業 (訪問)	74 (件)	182 (件)	168 (件)	△ 59.3%
〃 (外来)	17 (件)	21 (件)	28 (件)	△ 19.0%
福祉有償運送事業 (注 1)	81 (件)	62 (件)	117 (件)	30.6%
共同生活援助	8,238 (名)	8,019 (名)	7,659 (名)	2.7%

(注 1) 実施事業所 3 拠点のうち、2 拠点については平成 29 年 9 月 30 日をもってサービス提供を終了した

8 地域における公益的な取組の状況

社会福祉法第 24 条第 2 項の規定に基づき、当法人が培ってきた専門性やノウハウ等を活かし、地域住民や関係団体、機関等との連携のもと、地域における福祉ニーズの把握に努め、社会課題の解決に向けた公益的な取組を実践しました。詳細は、「Ⅳ 参考資料」に掲載しています。

9 職員の状況

(1) 職員数の現況と推移（令和 2 年 3 月 31 日現在）

職員数	前年度比	平均年齢	平均勤続年数
245 名	15 名増	45.1 歳	7 年 1 ヶ月
(内 訳) 常勤 113 名、準常勤 11 名 非常勤 91 名※内介護人 17 名 嘱託 19 名 登録ヘルパー 11 名	(内 訳) 常勤 3 名減、準常勤 2 名減 非常勤等 20 名増	(内 訳) 常勤 39.7 歳 非常勤等 50.7 歳	(内 訳) 常勤 8 年 7 ヶ月 非常勤等 5 年 2 ヶ月

(2) 入退職者の状況

【入職者状況】

雇用形態	新規学卒者	既卒者	現役学生等	合 計
常 勤 職 員	2 名 (1 名)	3 名 (4 名)	0 名 (0 名)	5 名 (5 名)
準常勤職員	0 名 (0 名)	0 名 (0 名)	0 名 (0 名)	0 名 (0 名)
非常勤職員	0 名 (0 名)	2 6 名 (7 名)	3 名 (2 名)	2 9 名 (9 名)
登録ヘルパー	0 名 (0 名)	0 名 (2 名)	0 名 (0 名)	0 名 (2 名)
嘱 託 職 員	0 名 (0 名)	8 名 (1 名)	0 名 (0 名)	8 名 (1 名)
合 計	2 名 (1 名)	3 5 名 (14 名)	3 名 (2 名)	4 0 名 (17 名)

【退職者状況】

勤続年数 雇用形態	1 年未満	～3 年未満	～5 年未満	～10 年未満	10 年以上	合計	離職率
常 勤	1 名 (1 名)	2 名 (1 名)	1 名 (3 名)	3 名 (3 名)	5 名 (4 名)	1 0 名 (12 名)	8.1% (10.3%)
非常勤等	9 名 (4 名)	5 名 (2 名)	2 名 (6 名)	7 名 (5 名)	1 名 (2 名)	2 4 名 (19 名)	19.8% (16.7%)
合 計	1 0 名 (5 名)	7 名 (3 名)	3 名 (9 名)	1 0 名 (8 名)	6 名 (6 名)	3 4 名 (31 名)	13.5% (13.5%)

※ () 内は前年度数を表記

(3) 新職員確保に向けた取り組み

- 就職説明会（法人独自）の開催や(大学・専門学校等)学内説明会の実施
 - ・法人就職説明会 延べ 2 回 9 名参加
 - ・大学学内説明会 1 回 ブース訪問者数 2 名
- ハローワーク、県福祉人材センター又は民間団体主催就職説明会への参加

- ・一般就職説明会 延べ5回 ブース訪問者数 53 名
- ・高卒向け就職説明会 延べ2回 ブース訪問者数 26 名
- インターンシップ生の受入と大学キャリアセンター等との連携、照会など
 - ・インターンシップ生の受け入れ 5 名
- ※インターンシップの受け入れだけでなく、しょうがいの理解を深めるために実施してきた学内へのゲストスピーカーの派遣先の拡大を行う。また各校・各学生の強みを活かしながら法人と学校が協働できることを検討する年とした。
- 「若者雇用促進法」に基づく『ユースエール認定企業』としての認定
 - ・2018 年度に認定を受けた『ユースエール企業』の更新
- その他、求人広告やインターネット媒体等の活用、施設見学会の実施（随時）
 - ・採用に関する学生の施設見学者 16 名

(4) 職員研修システムの遂行

＜職 制＞

月	日	項 目	内 容	参加者数
4	24	全体研修Ⅰ	「つどいの家の歩み」について ・つどいの家の歩みを振り返りながら、現在今後の事業運営について知る ・法人から職員へどんな人材になってほしいのか ・今後の社会福祉の展望について 講師：理事長 会場：つどいの家・コペル（地域系 10:30～、通所系 16:30～）	79 名
6	27	全体研修Ⅱ （座談会）	「職員座談会」～RHS：理事長とはなしすっぺ～ ・理事長と職員間のコミュニケーションの拡大プロジェクト 講師：理事長 会場：若林中央市民センターセミナー室	68 名
7	26	全体研修Ⅲ	「つどいの家の経営状況」について ・つどいの家の経営状況について知る ・今年度、職員全体で取り組むこと 講師：総務部長 会場：地域系 10:30～幸町市民センター、通所系 16:30～仙台つどいの家	72 名
7 10	2 10	全体研修Ⅳ	「メンタルヘルス研修」 ・セルフケア、こころの健康づくりについて学ぶ ・若年労働者向けのメンタルヘルス教育（セルフケア） 講師：宮城産業保健総合支援センター 阿部眞二 氏（社会保険労務士） 会場：地域系 10:30～幸町市民センター、通所系～16:30～すてっぷサロン	41 名
9	12	全体研修Ⅴ	「異業種を知る」～当事者の声を伝えたい 様々な取材現場から～ テレビ放送のドラマ 「明日をあきらめない がれきの中の新聞社～河北新報のいちばん長い日～」一部上映 ・新聞社の仕事内容や自治問題を知る。 講師：寺島英弥 氏（元河北新報社編集委員、現ローカルジャーナリスト） 会場：宮城県障害者福祉センター	70 名
6	29	非常勤等 職員研修	「障がい者の存在が健全で安らかな社会をつくる」 講師：阿部芳久 氏（東北福祉大学名誉教授） 「つどいの家のあゆみ」「理事長との座談会」 講師：理事長 「すてーじ上映」「グループワーク」 ・福祉職に従事する自覚と目標を持って、仕事や組織活動に取り組む姿勢を養う ・福祉サービスの基礎知識・基本的動向を理解する ・職場構成員としての連帯感を深める、職員間で交流できる場を設ける	60 名
5	24	選択研修Ⅰ （2つ選択）	①介護技術Ⅰ（排せつ・食事） 講師：法人職員	6 名
			②介護技術Ⅱ（車いす・シーティング） 講師：法人職員	9 名
			③重症心身障がい児・者の支援 講師：法人職員	4 名
8	1		④発達障がい・自閉症の支援 講師：法人職員	14 名

10	4		⑤自己決定・意思決定について	講師：法人職員	3名
			⑥個別支援計画とは	講師：法人職員	9名
5	29	選択研修Ⅱ (2つ選択)	①相談支援事業 ケアマネジメント演習	講師：法人職員	7名
			②事務について(財務・人事・労働法等)	講師：法人職員	20名
8	29		③地域生活支援の役割とは	講師：法人職員	*延期
			④行政・アーチルとの連携	講師：南部アーチル職員	27名
			⑤栄養指導 食育の大切さについて	講師：泉区家庭健康課職員	10名
10	30		⑥感染症・医療的ケアについて	講師：法人職員	14名

<権利擁護・虐待防止委員会主催 内部研修等>

- 内 部 研 修：「虐待防止とその対応に関するガイドライン」に基づき、権利擁護及び虐待防止に関する職員の意識向上を図ることを目的として、委員会主催の内部研修を実施。セルフチェックシートを用いて自己の支援や感情を振り返り、また他者と成功体験や福祉の仕事のやりがいを共有し、肯定感を高めあう機会とした。

(5) 相談支援、サービス管理責任者等研修への職員派遣

- ・相談支援従事者初任者研修 1名
- ・相談支援従事者現任研修 2名
- ・サービス管理責任者等更新研修 6名

(6) 資格取得奨励助成事業(法人独自)の継続実施

- ・介護福祉士実務者研修受講 1名

(7) 職員労働環境改善等に向けた取り組み

- ・仕事に関する職員満足度調査の実施(11月/207名より回答)
- ・仕事の棚卸調査の実施(11月/調査対象職員数72名)
- ・勤怠管理システムの導入(本格運用は令和2年度より)

Ⅲ 事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）

1 仙台つどいの家 事業報告

【 はじめに 】

昨年度も利用者さん一人ひとりの思いの実現と、地域社会のみなさんに利用者さんのこと・しょうがいのことを正しく理解していただけるように、各種イベントや外出活動を通して顔の見える関係づくりを目指して運営してきました。おかげさまで夏まつりやバザー、すてーじなどの各イベントは地域においても定着し、存在感を増しつつある状況です。

一方で近年の課題のひとつになっていた施設内の活動における内容の充実や準備・段取りの改善については、年度中盤にかけて大きな改善が見られなかったのは反省すべき点だと思います。年度後半になり、新型コロナウイルス感染拡大を受け外出に制限を設ける段になって、『この機会に室内での活動を大きく見直そう』『職員のスキルアップを図るチャンス』という声が現場職員の中で出始めたのは、怪我の功名というべきでしょうか。いずれにしてもよい傾向だと思います。この時期を利用して、腰を据えて日頃の支援を振り返る機会にして行きたいと考えています。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン 1

- 各種イベントの開催・参加や広報活動により、地域社会・近隣住民のしょうがいのある方への理解は少しずつ進んできているように感じる。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- めいぷる親子クッキングや小学生クッキング、柊江小学校の『かけこみ 1 1 0 番の家』の受託、イオン幸町店の新社員研修の一環としてのイベント企画など、地域向け行事を通して、仙台つどいの家が地域に還元できる取り組みを継続できている。今後は高齢者向けの行事の検討を、住民の声を生かして企画できれば。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- 重症心身しょうがいの利用者さんの年度当初の相次ぐ逝去で、財務上大きな減収を招くこととなった。他方、冬季の感染症の流行は完全に防ぐことができたことは、看護職員をはじめとした職員一人ひとりの高い意識の賜物だと感じる。
- 今年度も物販など仙台つどいの家独自の収益活動を継続して実施できた。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン 5

- 外部研修や先進事業所での職員実習を計画的に実施した。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月 1 回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
ケース会議	月 1・2 回	支援計画やケース資料等の確認・検討ほか
チーフ会議	月 1 回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
その他各種会議・打合せ	必要時	各行事企画運営、通信企画編集、ご近所 P ほか

< 内外部研修 >

(内部研修) ・実習、各種研修報告 ・法人内日中活動交換研修 ・権利擁護・虐待防止委員会主催内部研修 ほか	(外部研修) ・リーの会交換研修 ・福祉協会交換研修 ・サポート研セミナー ・日本福祉協会日中活動支援部会全国大会 ほか
---	---

< 行事等 >

名称	頻度	参加者数	目的など
イエローレシートキャンペーン	月1回	5-10名	地域交流・CSR活用ほか
コンサート	年3回	約100名	芸術鑑賞・地域交流・地域貢献ほか
親子クッキング	年2回	6組13名	地域交流・地域貢献・
夏まつり	8/3	約300名	地域交流・地域貢献ほか
バザー	10/12	約200名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
すてーじ	12/7	約150名	地域交流・地域貢献・啓発ほか

< 見学・訪問者一覧 >

	一般来訪者	他施設等利用者及び保護者	他施設等職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合計
4月	1	0	0	10	15	0	2	0	13	57	9	107
5月	2	2	4	4	22	3	20	0	5	55	47	164
6月	12	0	16	2	29	10	0	22	19	51	20	181
7月	26	2	0	3	53	0	1	9	12	50	61	217
8月	30	13	8	3	57	0	0	15	19	38	66	249
9月	3	0	0	4	35	0	0	2	9	45	20	118
10月	179	0	3	17	49	0	0	0	6	55	38	347
11月	43	2	4	6	44	0	0	8	7	51	16	181
12月	14	0	0	23	26	3	0	5	12	42	30	155
1月	24	0	0	4	21	0	0	2	2	50	18	121
2月	29	0	0	7	33	0	0	5	6	42	33	155
3月	4	0	0	3	25	0	1	4	7	49	18	111
合計	367	19	35	86	409	16	24	72	117	585	376	2,106

< 利用状況等 > 「Ⅳ 参考資料」に掲載

2 つどいの家・コペル 事業報告

【はじめに】

2001年（平成13年）に知的障害者更生施設（通所）、知的障害者デイサービスセンター、重症心身障害児（者）通園事業B型の複合施設として開設した当事業所も19年目の年度を終えることが出来た。

支援においては6つの活動グループを基本としながら、個別支援計画に沿って有機的にグループを横断する活動を実施した。日々の支援体制調整と共に事業所内の職員交換研修を実施し、個々の職員が所属するグループ以外の支援にも従事する機会を設けた。また、自らの支援を振り返り、視覚化し、他者へ伝えることを経験する為、12月に事業所内の実践報告会を開催し、常勤、準常勤職員（計21名）が自らの支援を表す機会を持った。

環境整備を含む事業所管理については、6月から8月にかけて空調設備と給湯設備の大規模改修工事を実施。設計事務所及び施工業者との情報共有、利用者とその家族の理解と協力、職員間の連携が重なり合い、無事に工事を終えることができた。また、改修工事実施にあたり延べ300名の方から励まし言葉と共に多大なる寄附をいただいたことにも改めて感謝の意を表したい。

経営面においては、「仙台市重症心身障害者生活介護事業費補助金」廃止後の事業運営について、内部での検討と仙台市担当課との協議を経て令和2年度以降のサービス単位のあり方を決定した。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 利用者の降所時間を13時30分とするケース会議の頻度を増やし、年間20日（前年比プラス8日）実施。全体、フロア、グループ単位でケース会議を開催し、利用者の理解や支援の方向性を深めた。
- 年度内で6回発行したコペル通信にて「意思決定支援」に関する記事を掲載。利用者の意志や感情を理解する日々の関わりについてまとめ、他者へ伝える機会を持った。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 公益活動として、当事業所を会場に学齢児向けの体操・ダンス教室を開催した。全5回の開催で16名の参加者があった。
- 12月3日～12日を期間として、七十七銀行沖野支店にて「観て！魅て！アート展」を開催。クリスマス为主题とした利用者のアート作品を展示し、地域の理解促進と交流を図った。
- 沖野東小学校3年生の交流会を実施。コペルの紹介やレクリエーションを通して交流した。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 大規模改修工事の寄附協力者に感謝の気持ちを伝える為、コペル通信内に寄附者を紹介する記事を掲載した。工事完了後、改修工事後の写真を含めた報告書を作成。コペル通信に同封し、寄附協力者へ発送した。同様の内容をホームページにも掲載した。
- 利用者の高齢化等を踏まえ、事業所内にAEDを設置。仙台市が実施する「杜の都ハートエイド」制度の応急手当協力事業所としての登録も行った。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 大規模改修工事に伴う設備更新により、234,832円の光熱費の削減。（※8～12月の実績／平成30年度との比較）
- 仙台市重度重複障害者等受入通所施設等整備補助金（重度加算）対象者1名増。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 内部研修内で実践報告会を実施。常勤、準常勤職員が自らの支援をまとめ、発表する機会を持った。
- 安全委員会主催の内部研修を実施し、医療的ケアのある方の生活や家族の思い、吸引や経管栄養の処置について学ぶ機会を持った。
- 自閉症支援の実践を知る為、コペルⅠ所属職員を中心に社会福祉法人栗原秀峰会の視察研修を実施した。

○ その他の活動

- 仙台市社会福祉協議会若林事務所を介して株式会社サンゲツ東北支社からカーペットとカーテンを寄贈していただいた。御礼としてピアノコンサートを開催。
- 令和2年度以降のサービス単位のあり方について仙台市担当課と協議した際、人員配置体制加算と常勤看護職員等配置加算の過誤請求が判明した。過去5年の給付費の差額分を請求することとなった。
- 当事業所を会場に連合保護者会勉強会を開催。福祉用具や食品の展示、訪問入浴の実演などが行なわれた。
- 宮城県重症心身障がい者の地域生活を進め支援する会（通称：リーの会）保護者の会に参加。「この街で暮らすこと〜グループホームみらいの生活」（利用者家族5名・職員3名）
- 特定建築物定期報告書作成時の指摘に基づき、該当箇所の防火ガラスへの交換、館内の誘導灯のバッテリー交換を実施。
- インフルエンザの感染拡大に伴い、1月15日、16日を休館とした。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
職員会議	月1回	事業所運営の方向性、日程確認、情報共有、意見交換など
ケース会議 (全体・フロア・グループ)	月1～2回	個別支援計画の具体案検討・見直し・検討、利用者や家族の状況共有など
チーフ会議	月1回+臨時	事業所運営の意思決定、事業報告、課題検討など
グループ会議	月1回	各会議・事業報告、施設の共通課題検討、意見交換など
月案会議	月1回	活動・体制調整、車両、共有備品等使用調整など
給食会議	年4回	食事提供にかかわる課題検討・意見交換など
喀痰行為安全委員会	月1回	支援員による医療的ケアの実施状況確認、評価確認など

< 内外部研修 >

内部研修 ・4月 運転研修（事故想定への対応訓練） ・6月 「医療的ケアについて」 ・8月 AED講習（講師：ALSOK） 栗原秀峰会視察研修 ・12月 実践報告会 安全運転研修（講師：若林警察署交通課）	・給食施設衛生管理研修会（1） ・宮城県重症心身障がい者の地域生活を進め支援する会交換研修（3） ・宮城県サービス管理責任者更新研修（1） ・重症児者医療ケア児対応スキルアップ研修（6） ・仙台市知的障害者関係団体連絡協議会視察研修（岩手県方面）（1） ・宮城県知的障害者福祉協会施設長研修（1） ・福祉施設栄養士研修会（1） ・宮城県医療的ケア児等支援者養成研修（1） ・仙台市知的障害者関係団体連絡協議会福祉講座「自閉
外部研修（ ）内は参加者数 ・介護職員等による痰の吸引等実施研修（1） ・食品安全衛生講習会（1） ・鶴谷特別支援学校学校見学会（1）	

・社会福祉法人会計実務セミナー（１） ・HACCP 講習会（１） ・宮城県重症心身障がい者の地域生活を進め支援する会視察研修（東京方面）（１） ・産業保健研修（２） ・障害者職業生活相談員資格認定講習（１） ・自閉症支援「行動障害から学ぶ」（３） ・強度行動障害支援者養成研修（基礎）（１）	症支援」（１） ・宮城県知的障害者福祉協会 権利擁護研修会「意思決定支援」（２） ・宮城県重症心身障がい児者の地域生活を進め支援する会 施設長・職員研修（４） ・外部研修への参加者数 延べ 35 名
---	--

< 行事等 >

名 称	頻度	参加者数	目的など
コペルでバザール	年 1 回	約 200 名	収益活動・バザーを通じてつどいの家を知ってもらうこと。
観て！観て！アート展 （七十七銀行沖野支店にて開催）	年 1 回	—	しょうがいのある方が描いた作品を多くの方々に観ていただき、一人ひとりの個性豊かな作品を通じて地域の方にしょうがい者への理解と交流を図る。
仙台市立沖野東小学校交流会	年 2 回	約 80 名	しょうがい理解の促進・地域交流
成人を祝う会	年 1 回	約 70 名	新成人のお祝い
市民センターまつり等への参加	年 4 回	多数	しょうがい理解の促進・地域交流

< 見学・訪問者一覧 >

(H31. 4. 1～R2. 3. 31)

	一般来訪者	他利用者等 事業者家族等	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4 月	12	3	1	4	1	1	6	0	9	28	74	139
5 月	21	20	2	0	0	12	2	0	4	31	54	146
6 月	5	3	0	2	1	1	4	10	79	50	90	245
7 月	238	18	7	2	2	1	3	0	2	21	4	298
8 月	9	3	5	4	7	0	3	1	9	17	12	70
9 月	23	2	6	27	1	2	0	0	7	17	63	148
10 月	10	3	18	1	2	0	1	4	1	16	63	119
11 月	12	15	13	0	2	0	0	8	7	24	16	97
12 月	23	5	8	9	2	0	0	0	3	23	17	90
1 月	7	1	10	1	5	0	0	0	2	12	41	79
2 月	39	6	4	1	1	4	0	1	3	10	32	101
3 月	10	8	15	5	2	0	7	0	9	10	43	109
合計	409	87	89	56	26	21	26	24	135	259	509	1641

3 つどいの家・アプリ 事業報告

【はじめに】

昨年度に引き続き、生活支援員による喀痰吸引の基礎・実践研修に取り組みました。利用者本人、指導看護師との息もぴったりで、順調に取り組んでいましたが、利用者の健康上の理由で長期入院となり、11月以降は喀痰吸引の取り組みをいったん中止する状況になりました。また、自閉症スペクトラムのしょうがい特性を理解しながら、支援に取り組んでいます。「絵に書けない言葉がけ」「見えるものはYES」など支援者間で統一した考え方をもち、支援に根拠をもって取り組めるようにしています。

行事では、利用者の夜間様子の把握のため、2年ぶりに宿泊体験会を実施しました。一昨年の経験をもとに、利用者の成功体験を積み重ねることを目標にしながら取り組みました。当日は、眠ることができない、不安になり大声を出すなど様々なできごとではありますが、無事に体験会を終わることができました。通所の時間のみならず、夜間の様子を把握することがいかに大切なことであるかということを職員間で共有できたと思います。

職場の働き方改革では、特に休憩時間について、グループによって差異が生じることが多々あります。次年度以降は、利用者が通所している時間帯に休憩時間を確保する方向ではなく、通所前後に休憩時間をとれるようにある程度幅を持たせた休憩時間の設定で実施していきたいと考えています。

【経営ビジョンに基づいた今年度の取り組みと評価】

○ 権利擁護推進のに向けた取り組み

経営ビジョン 1

- 自閉症に特化した研修の企画
- 地域外出活動（太白地域への啓発活動）

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

- つどいの家・アプリ バザー「バザ〜っす」の開催
- 山田町内会行事への参画・環境美化活動・防災活動など
- 地域における公益的取り組み（中学校職場体験前の出前講座実施など）
- 宿泊体験の実施

○ 地域社会等からの信頼構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- つどいの家・アプリの可視化
- 職員の支援力向上

○ 経営基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- 利用者の出席率維持と通所日数の確保

内 容	2019 年度目標	2019 年度 結果	目標数値の増減
アプリ利用者出席率	93%	91%	-2%
ミント利用者出席率	92%	86.5%	-5.5%
通所日数	251 日	249 日	-2 日

*出席率減：利用者の退所2名・長期入院2名または長期欠席のため／通所日減：職員体制不足のため

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン 5

- 各種研修会の参加・先進事業所の見学
- 宿泊体験の実施
- 自閉症研修の随時開催
- 衛生管理について（食育、保健等）

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分 類	重点課題	具体的な取り組み	評 価
労働環境	・業務の効率化 ・環境整備及び計画的休暇取得	・勤務時間内における業務の工夫 ・休憩時間の確保や時間外労働の軽減、年次有給休暇取得率アップに向けた職員の意識改革	・勤務時間内に業務を遂行できるように工夫。 ・休憩時間の課題はあるが、年休消化率は高まった。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	毎月	各項目に分かれて、協議確認
グループ会議	隔月	ケースワークや諸課題の整理
チーフ会議	毎月	事業所内の検討課題について協議
ケース会議	毎月	利用者のケースワーク、研修会の開催、自宅訪問等
全体懇談会	隔月	事業所の課題、保護者会との取り組みなど

< 内外部研修 >

内部研修 ・権利擁護・虐待防止に関する研修会 ・防災備蓄品確認 ・消防部分訓練 外部研修 ・全国重症児デイサービスネットワーク ・安全衛生推進等養成講習 ・市社協 新任職員研修会 ・地域セミナー ・甲種防火管理者講習会 ・障害福祉関係施設等職員研修会 ・強度行動障害支援者研修（基礎・実践） ・発達障害の特性から学ぶ子育て意識改革 ・安全運転研修 ・全国知的障害関係施設長等会議 ・ハサップ講習会	・日中支援職員研修会 ・てんかん基礎講座 ・受動喫煙防止セミナー ・みやぎ企業採用力向上セミナー ・ダウン症支援セミナー ・医療的ケアと日常生活上のケア ・視察研修（青葉園・あゆみの家・ベデスタの家） ・安全運転管理者講習会 ・サビ管更新研修会 ・視察研修（侑愛会） ・全国知的障害福祉関係職員研究大会 ・人材確保戦略セミナー ・地域福祉セミナー ・社会福祉士実習指導者講習 ・緩和ケア ・自閉症研修2019 ・仙団協福祉フォーラム など
--	---

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
宿泊体験会①	8月22日(木)(金)	20名	ケースワークのため
宿泊体験会②	9月13日(金)(土)	4名	ケースワークのため
ポッケの森まつり	9月7日(土)	多数	他法人間交流
人来田中学校実習事前授業	10月10日(木)	30名	実習事前授業、しょうがい理解
バザ〜っす	10月19日(土)	多数	バザーを通じて、地域につどいの家のことを知ってもらう。
山田市民センターまつり	11月10日(日)	多数	地域とのコミュニケーションを図る
新成人を祝う会	11月30日(土)	多数	新成人を祝う会(1名)
宮城教育大学ゲストスピーカー	11月5日(火)	5名	今年で12年目。学生にむけて、しょうがい理解を進める活動。

< 渉外・他 >

4/25	リーの会 総会	10/10	人來田中学校実習事前授業
5/9	県知的障害者福祉協会定期総会	11/22	後援会「道草」上映会 メディアテーク
5/21	第1回 人権倫理委員会	12/16	仙台地方裁判所 傍聴
6/11	宮城大学 訪問	12/25	宮城教育大学 来訪
7/1	第2回 人権倫理委員会	2/14	夏のボランティア説明会
9/17	第3回 人権倫理委員会		縄文の森広場運営懇談会
9/25	人來田中学校 来訪	3/6	レクリエーション教室報告会 など

< 見学・訪問者一覧 >

(R 元. 4. 1～R. 3. 31)

	一般来訪者	他事業所等利用者 及び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4 月	5	10	11	10	0	0	0	0	5	33	8	82
5 月	4	26	4	8	7	0	0	0	9	27	20	105
6 月	9	51	2	23	7	0	0	6	12	24	10	144
7 月	3	9	6	15	0	0	0	3	15	27	9	87
8 月	8	30	3	1	4	0	0	0	14	18	33	111
9 月	8	69	2	0	0	5	0	17	11	22	7	141
10 月	5	46	0	0	16	0	0	3	7	21	15	113
11 月	13	39	0	0	0	0	0	2	10	19	17	100
12 月	0	45	2	1	1	0	0	0	15	27	15	106
1 月	0	9	0	6	2	0	0	0	12	21	2	52
2 月	1	24	0	0	0	0	0	1	4	17	6	53
3 月	7	23	3	6	0	1	4	1	6	30	11	92
合計	63	381	33	70	37	6	4	33	120	286	153	1186

4 八木山つどいの家 事業報告

○はじめに

新規登録者1名を迎え、利用者15名での活動展開となった。ホールと喫茶店（地域交流室）の2部屋での活動となっているが、以前から活動環境の課題がある。喫茶定休日を活用し、喫茶店を利用する活動を増やすなどの取り組みを行なう。年度内で1名退所し、10月からは14名での活動となった。新規利用登録者の獲得が急務となっている。利用者の年齢層については18～53歳と幅広く、個別ニーズや体力面に相違があるが、環境整備・個別支援計画を元に本人の希望に寄り添う支援を丁寧に進めた。結果、安定的な通所につながり出席率が向上した。公益的な取り組みの一つでもある地域交流イベント（コンサート・手つ学カフェ）を開催。参加した地域の方はもちろん演者や講師とのつながりが生まれた。八木山つどいの家バザーについては、初の試みとして八木山市民センターまつりと同時開催でバザーを予定していたが、台風接近の為中止となった。地域交流室「喫茶やまかぜのベンチ」を開店して4年。課題でもある今後については、生活介護事業所に併設された喫茶店としての方向性を事業所内で確認した。喫茶活動の経験がない利用者にも喫茶店に関わる機会が増え、自分の仕事としてやりがいをもって取り組んでいる。新しい取り組みとしては、東北工業大学のゲストスピーカーとして利用者が直接思いを発信する場ができた。参加した利用者にとっても自信に繋がった。次年度は尚絅学院大学とのつながりを活かし、学生と直接交流する場を設け、しょうがい理解・人材確保等に繋げていく。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 利用者と家族の関係性の中で、権利擁護の課題が浮上し、相談支援事業・行政・包括支援センターと連携をしながら進めた。
- 東北工業大学ゲストスピーカーを通してしょうがい理解の取り組みを行う事ができた。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 地域交流イベント（コンサート）を開催して、地域住民と交流の場を設けた。（4回）
- 中学校行事に参加して学生と交流。
- 手つ学カフェ（こども食堂の取り組み）開催。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 町内会、防災連絡会、学校等と連携。
- 一丁目公園まつりに参画。八木山つどいの家と地区班長としての役割を担う。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 喫茶店を利用して、貸館や演奏者へ貸し出し等企画。
- ミニバザーこの市とまれ、各種販売会へ参加。
- 送迎車両の助成取得（日本財団）し、安定的な送迎の基盤整備を行う。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 事業所間での交換研修を行い視野と技術習得。
- 今年度より登録した知的障害者福祉協会（全国・東北・宮城）の研修に参加。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的取り組み	実績と結果
コミュニケーション支援	可視化による意思伝達の工夫。 丁寧に意思確認や意思決定支援を行なう。	本人希望を聞き取りながら活動を組むが、写真カードや絵カードを使用していくことで、本人の変化が見られた。

家族との連携	将来の生活について話し合う。 施設懇談会や行事へ家族参加を促す。(茶話会、施設見学等)	施設懇談会に参加しやすい環境を整備。バザー等行事の事前打合せを計画。
健康管理	看護師、嘱託医、主治医との連携 通院同行、グループホームとの情報交換。	嘱託医による健康相談を開催。 その他、グループホームに入居した利用者の健康面での相談・通院を行なった。近隣にある病院とつながる事ができた。
作業品開発・アート作品商品化プロジェクト	美術系学生や手芸作家にボランティアとして参画を促す	・アート活動の取り組みを検討している。アート作品の作業受注。
地域交流行事との連携 (地域住民、小学校・中学校との交流)	一丁目公園祭りにて子ども向けワークショップ開催。 八木中祭で空教室にてワークショップ開催。	・八木中祭ではバザーとボッチャ体験を開催。手つ学カフェを通して、学童の抱える課題について知る機会となった。
活動ボランティア 喫茶ランチタイムボランティア	地下鉄沿線大学の学生や地域住民の活動ボランティアを募集。 喫茶ランチタイムボラ募集。	活動ボランティアは働きかけ弱く希望につながらず。ランチタイムボラは引き続き検討中。
地域交流室のギャラリー化	喫茶室にピクチャーレールを設置し、定期的にアート展を開催。	写真クラブで撮影した作品を展示。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
チーフ会議	月 1 回	予定確認、グループ特記、行事進捗、ケース会議議題検討、内部研修テーマ検討、他
月案調整会議	月 1 回	活動場所調整、支援体制調整、配車、食数確認、他
職員会議	月 1 回	予定確認、会議・委員会報告、行事確認、検証、内部研修、他
ケース会議	月 1 ～ 2 回	個別支援計画、ケース特記、ケース記録まとめ、事例検討、他
非常勤等連絡会 (全体・喫茶)	月 1 回 (隔月)	情報共有、喫茶・厨房・事務の連携、イベント検討、季節メニュー検討、他

< 内外部研修 >

・施設長資格認定講習（11月スクーリング）1名 ・日中活動支援部連絡会主催交換研修 6名 ・宮知福主催日中活動支援部職員研修会 2名 ・社会福祉協議会主催「財務について」 1名 ・市主催 BCP セミナー（普及・啓発） 1名 ・市主催 BCP セミナー（策定） 1名 ・市主催 BCP セミナー（個別相談） 1名 ・HACCP 研修 2名 ・視覚支援学校見学・視覚視点について研修 8名	・全国知的障害関係施設長等会議 1名 ・日中活動支援部会意見交換会 1名 ・八木山地域防災シンポジウム 1名 ・スマホ・ケータイ教室（利用者向け） 1名 ・USEN 主催 LINEWORKS セミナー 1名 ・社会福祉法人経営強化セミナー 1名 ・サービス管理責任者等更新研修 1名 ・人材確保戦略セミナー 1名 ・介護職員初任者研修 1名
---	--

< 行事等 >

名称	開催日 (頻度)	参加者数	目的など
八木山つどいの家バザー	年 0 回	0 名	地域交流、保護者会との連携、収益 台風接近に伴い中止。
ミニバザーこの市とまれ	年 4 回	21 名	利用者主体のバザー品の販売
生協販売会	3 回	20 名	利用者主体の手作り品の販売
イエローシートキャンペーン	2 回	10 名	イオン来店者との交流
一丁目公園祭り	年 1 回	6 名	町内会との交流、児童との交流

八木中祭	年 1 回	1 4 名	中学生との交流、学校との連携
八木山市民センターまつり	年 1 回	0 名	アート作品の展示、展示説明 台風接近に伴い中止
八木山フェスタ	年 1 回	1 4 名	地域交流、団体との連携、喫茶営業
コンサート	年 4 回	4 0 名	地域交流、演奏家の発表の場
手つ学カフェ	年 1 回	9 名	地域交流、地域課題の共有
イオンサンタ訪問	年 1 回	4 名	地域交流、季節行事

< 渉外・他 > ※地域や法人行事等は含まず。

4/8	ピーススマイルなのはな来所 2 名	1 1 / 7	八木山中学校 職場体験 2 名
4/9	運転手面接、	1 1 / 1 5	明治安田生命 CSR 打合せ 2 名
5/9	アルソック設備点検	1 2 / 2	福祉ネイリスト 来所 1 名
6/1 3	大町交番所長来所	1 2 / 6	イオンサンタ訪問 来所 3 名
6/1 8	太白区役所保健師来所 2 名	1 2 / 2 4	日産プリンス宮城 担当 1 名
6/1 9	連合保護者会清掃活動	1 / 1 5	通所希望者 実習打合せ 1 名
6/2 0	旗立分教室教師来所 1 名	1 / 2 7	新卒希望者 実習打合せ 1 名
7/2 3	やまびこの湯マネージャー来所	2 / 5	実習 1 名 付き添い 1 名
7/3 0	人来田中学校 実習 1 名	2 / 6	実習 1 名 付き添い 1 名
9/2 0	建物物定期点検 担当 2 名	2 / 1 2	東北工業大学教授来所 1 名
1 0 / 7	南部アーチル来所 4 名	2 / 1 3	仙台建設業協会退所（寄付）
1 0 / 9	東北工業大学教授来所	2 / 2 1	尚綱学院大学教員 来所 2 名
	小松島支援学校教師来所		グリストラップ清掃 1 名
1 0 / 2 1	光明支援学校教師来所		

< 見学・訪問者一覧 >

来 訪 者										
実施月	見 学 者	実 習 者	一 般 来 訪	利用・家 族	業者関 係	関 係 機 関	地 域 関 係	法人内	寄付・寄 贈	小 計
4月	2	0	87	11	10	0	2	5	1	118
5月	0	0	62	2	9	1	1	19	0	94
6月	1	0	135	22	10	6	2	8	0	184
7月	0	2	95	13	9	8	2	5	0	134
8月	1	0	49	7	8	5	3	21	0	94
9月	0	0	151	10	10	6	5	13	0	195
10月	3	0	76	7	9	10	5	8	0	118
11月	0	2	74	10	11	8	6	2	0	113
12月	0	0	96	4	13	2	8	1	0	124
1月	2	0	58	4	17	1	6	2	0	90
2月	0	2	113	9	12	16	19	23	4	198
3月	1	0	0	18	9	9	2	21	2	62
合計	10	6	996	117	127	72	61	128	7	1524

※見学欄に面接者含む。寄付寄贈に飲食物は含まず。利用者と一般、見学、実習以外は要件でカウントしている。

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

5 若林障害者福祉センター(生活介護事業・生活訓練事業) 事業報告

【はじめに】

平成 31 年度は、年度初めに生活訓練事業利用者の移行を推し進めることができた。移行後も支援者会議等に参加し、関係性を途切れさせることなくチーム支援の一端を担った。活動においては、継続して実施している創作活動にて「仙台市障害者による書道・写真・絵画コンテスト」の絵画部門にて銀賞を受賞した。また、成人を迎えた利用者の「成人を祝う会」を実施した中で、職員や家族主導ではなく、成人を迎えた本人が当初から企画し、通所日数の少ない中で会を実施できたことは、個別に向き合える環境だからこそ成し遂げられたことと考える。

一方、仙台市における障害者福祉センターは、「地域の障害者福祉拠点として先導的な役割を担い、地域リハビリテーション事業全体を底上げする機能」が求められ設置されたが、しょうがい者福祉を取り巻く環境が大きく変化している中、今後の障害者福祉センターのあり方も変わっていくことが考えられるため、それらに柔軟に向き合う姿勢が課題となってくる。

【経営ビジョン実現に向けた取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 意思決定支援を大切にし、支援者個々が日常支援の中でセンターを取り巻く環境や社会情勢の把握に努めながら、権利擁護について自分自身の問題ととらえ、センター内他団体と各団体の事例を用いた研修会に参加することで権利擁護意識の醸成を図った。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- センター内に関わらず、各種イベントや外出活動で街中を行動することで、広く市民の方々と触れ合い社会参加意識の向上を図り、幅広く交流の機会を持つように努めた。小学校の福祉学習の場では、医療的ケアが必要な利用者が講師として参加し、自身の生活やセンターでの活動を紹介し、小学生が日常的に触れる機会が少ない医療的ケアの必要な利用者との交流を図った。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- センターを運営する三つの団体と共同して「若林区民まつり」に参加し、生活介護・生活訓練事業を知ってもらうため利用者の作品展示コーナーを設け、事業への理解に努めるとともに法人理念の浸透を図った。

○ 財政基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- センターは、市の委託料により事業を展開している事もあり、職員（支援者）が法人内の他事業所に異動しても常にコストを意識し、経費のムダを省く行動を身に着けるよう努めた。

○ 人材育成及び研修等への取り組み

経営ビジョン5

- 個々の職員（支援者）に必要とされる基本的知識や支援力向上のため或いは利用者との関係の中で求められる技能の習得に努め、内部研修のみならず外部の専門研修に派遣し、その習熟を図った。

【その他重点的な取り組みと成果等】

内 容	具体的な取り組み	目標とする成果等
(1) 本人主体の個別支援計画を推し進める	本人を取り巻く多くの環境を考慮し、一人の支援者の考えだけではなく、複数の支援者の考えを取り入れ、そのうえで個別支援計画を作成する。	事業所内外の本人と関わる支援者がチームで課題検討することにより、その場限りではない、継続した支援を進めることができた。
(2) 高齢化して行く保護者の負担軽減への配慮	利用者の通院同行を実施し、家族に主治医の判断等を伝え、共有することで、高齢化していく家族の負担軽減を図る。	必要に応じ通院同行することで、本人を取り巻く必要な医療の背景を知ることが出来、家族だけに負担が寄らない健康管理を提言することができた。

(3) 法人理念の浸透を図る	法人理念の理解の醸成を図るために区内各種イベントや近隣町内会等との懇談の際、事前の連絡調整の場や会合の場を通じて支援内容のみならず、法人の目指す理念や計画等の説明に努める。	民生委員との懇談会の場において、利用者の在住地区の民生委員とかかわりを持つことができ、様々な要因からセンターに通うことが難しい利用者の情報を得ることができ、また利用者の取っている行動の意義等を伝えることができた。
-------------------	--	--

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
支援会議	1回/月	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など * 仙台市障害者福祉協会看護師参加
職員会議	1回/月	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
月案会議	1回/月	活動・体制調整、車輛使用予定確認など
センター運営会議	1回/月	各事業報告、センター運営の課題検討、意見交換など
センター広報委員会	1回/月	センター機関誌編集発行、センターまつり企画運営など
センター研修委員会	1回/月	センター内部研修企画・実施など
看護師連絡会	1回/月	福祉協会職員と利用者の健康についての確認や情報交換など
給食連絡会	1回/月	福祉協会職員と給食調整、課題検討など
送迎連絡会	1回/月	福祉協会職員と送迎調整、課題検討など
入浴連絡会	1回/月	福祉協会職員と入浴調整、課題検討など

< 内外部研修 >

・強度行動障害支援者養成研修 ・障害保健福祉新任職員研修会 ・宮城県立小松島支援学校見学会 ・障害者福祉関係施設等職員研修 ・仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修 ・施設長資格認定講習 ・社会福祉施設職員研修「新任職員研修」 ・宮城県障害者福祉施設職員研修 ・介護技術ステップアップ講習会	・障害のある人の芸術支援について ・療育支援研修会 ・宮城県社会福祉施設職員研修「福祉レクリエーション研修」 ・ロジカルシンキング研修 ・障害者福祉センター生活介護研修 ・障害者福祉センター医療的ケア研修 ・権利擁護・虐待防止内部研修 ・上級救命講習
---	--

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	目的など
センターまつり	7月21日(日) (1回/年)	まつりを通してしょうがい者福祉の啓発を行い、地域福祉の拠点としてしょうがい者の総合的な福祉の促進を図る
ウエルフェア	9月29日(日) (1回/年)	広くしょうがい者福祉についての関心と理解を深めるとともに、しょうがいのある方の社会参加への意欲を高める
若林区民ふるさと祭り	11月4日(月) (1回/年)	若林区内における総合的な交流の場に参加することにより、区民意識の高揚や地域の活性化を図るとともに、安全で安心なコミュニティづくりを目指す
沖野小学校福祉学習	7月11日(木) (1回/年)	近隣小学校における総合学習にて、しょうがいのある人の講話や体験を通し、しょうがい福祉を広める
南小泉、蒲町中学校職場体験	11月 (1回/年)	近隣中学校の職場体験にて、将来、社会的・職業的に自立できる力を育むための体験活動を通じて、しょうがい福祉を広める
成人を祝う会	1月24日 (金)	成人を迎えたことを仲間・家族と共に祝い、大人の社会の一員になる自覚を醸成する

< 利用状況等 >

「Ⅳ 参考資料」に掲載

6 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」事業報告

【はじめに】

ヘルプ事業を再編することで特定事業所加算を取得したが、利用者数や移動距離等が増え、365日フル稼働で事務所不在が常と余裕なく、再編の振り返りには至らず。レスパイト事業は専任スタッフの少ない中、介護人の協力で維持するが、後期は介護人雇用化や送迎見直し等の転換が求められ慌ただしくなった。各事業共に人員不足のため募集に力を入れるが採用には至らず。事業チーフ、サービス提供責任者、事務員を中心に、職員間で連携しながら乗り切ったと感じる。一方、台風被害や感染防止等による利用中断や制限の判断が求められ、リスク対応の迅速さと事業継続の厳しさを目の当たりにした1年だった。

そうした中だが、地域とのつながりについては地域交流室を併設していることもあり、職員の地域交流に対する意識は高く、地域イベントを継続開催。地域行事への参加と町内会との関わりは、南光台の地だけに今後につなげたい。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 権利擁護虐待防止委員会による研修を実施し、職員の権利擁護意識を向上させる。
- 利用者一人ひとりの希望に基づいた居宅介護計画を作成し、ヘルパーを派遣する。

権利擁護虐待防止委員会を中心に、ぴぼっと南光台とぴぼっと支倉との合同研修を実施。職員自身の日々の支援の振り返りを行い、どのような関わりがよいのか意見交換する機会を設けた。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- バザー開催などにより、地域住民との交流を図る。
- 地域交流室を活用した事業所主催のイベントを開催し、地域の方に事業所に入出入りして頂く機会を増やす。

南光台三丁目市（ミニバザー）や子ども向けのイベント（三丁目ひろば）を継続開催しているが、認知度としては課題が残る。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 町内会に積極的に参画し、地域における役割を果たす。
- 地域交流スペースの貸し出しにより、各種サークル活動や地域の会議等の開催に貢献する。

町内会に加入し総会や清掃等の町内会行事にも参加したことで、近隣との関係性は良好。地域包括圏域会議では事業所の紹介の場を設けてもらうなど、概ね地域との関係性は築けた。

地域交流室は団体の継続利用はあるが、新規団体の利用には至らず。PR方法の工夫が必要である。

事業所通信紙は内容の工夫と発行回数を増やし、配布先も広げた。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 特定事業所加算の取得に加えて、年間を通して利用実績やサービス提供の割合（居宅介護・移動支援）の把握・管理を行ない、事業の継続的・安定的運営を図る。
- 効率的な職員配置や常勤率の見直しについての検討を進め、次年度以降の事業運営の方向性を見出す。

移動支援の実績が多い一方、居宅介護の実績は伸びず運営バランスは図れず。また、台風直撃で利用中止やコロナウイルス対策での時間制限の影響が大きい。法人で取り組む介護職員初任者研修

の受講者が登録ヘルパーとして繋がるよう工夫が必要である。レスパイトは利用低迷しているが、その要因はつかめず。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 介護人・登録ヘルパー等の人材確保のため、大学・資格養成校等への働きかけを強化する。
- 介護人連絡会・ヘルパー研修会を定期的に開催し、事業実施上の課題や共有すべき内容をタイムリーに伝達していく。

介護人連絡会は講師をJAFに依頼し3所合同で開催。登録ヘルパー連絡会は毎月開催しており、勉強会も行う。今後、介護人雇用化に伴い内部研修を充実させる必要がある。

○ その他

- 仙台市障害者家族支援等推進事業連絡協議会の運営に積極的に参画し、事業実施上の課題について仙台市担当部局に対し、よりよい事業になるよう改善提案していく。
- 移動支援事業の実施上の課題について、データをもとに仙台市担当部局に改善を求める具体的な動きを行なう。

仙台市障害者家族支援等推進事業連絡協議会の事務局を輪番で担い、前期は法人枠を超えた交換研修や集合研修など活発だったが、後期は介護人雇用化の動きがあり戸惑いが見られた。

移動支援の課題は仙台市へ要望書で提起するが、改善には至らず。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 公用車管理	車両日常点検の実施	普段の運行前点検や車両整備に不備あり。定期点検の予算を組む必要あり。
(2) 防災	事業棟からの出火を想定した避難訓練の実施。	発電機等の操作訓練は職員間で実施。登録介護人との合同による避難訓練は実施できず。
(3) サロン活動等	地域向けのイベントを開催する。	南光台三丁目市（ミニバザー）や子ども向けのイベント（三丁目ひろば）を開催。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月1回	構成員：管理者・事務員・各事業チーフが参加 内容：各事業の現状共有・課題検討等
職員会議	月1回	構成員：全職員（※登録ヘルパー除く） 内容：会議や委員会の情報共有・事業所内の課題検討、ヒヤリハット共有等
ぺんたす会議	月1回	構成員：ぺんたす職員（※登録ヘルパー除く）、管理者 内容：ヘルプ事業の課題検討・支援上の情報共有等
すてっぷ会議	月1回	構成員：すてっぷ・はうす職員、事務員、管理者 内容：レスパイト事業の課題検討・支援上の情報共有等
サビ責連絡会	月1回	構成員：サービス提供責任者

		内容：ヘルプ業務の連絡調整、ヘルパー連絡会の確認事項等
安全委員会	月 1 回	構成員：サービス提供責任者、医療的ケア職員、管理者 内容：医療的ケアを実施している利用者の状況共有等

< 地域交流室 >

すてっぷ サロン	サロンスペースを活用し、地域住民や団体に開放（有料）。 趣味の教室（こぎん刺し、お包みの会、三味線講座、手巻き寿司、南光台地域包括等） 会合（かぼちゃゼミ、福祉ネット仙台、仙台つどいの家保護者会等） アート&写真展（仙台つどいの家利用者による個展）
-------------	---

< 外部研修 >

行動障害研修（1名）
リスクマネジメント研修（1名）
喀痰吸引3号研修（3名）
人材育成セミナー（1名）
子ども食堂シンポジウム（1名）
子ども食堂学習会（1名）
地域福祉セミナー（1名）
ネット仙台主催在宅ケア勉強会（1名）
タイムマネジメント研修（1名）
移動ネットみやぎ主催送迎サービス研修（1名）
行動障害者の虐待予防研修（1名）

7 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」 事業報告

【 はじめに 】

相談支援事業は委託相談を引き続き行うとともに、計画相談において今年度からゆあらいふと合併し特定事業所加算Ⅲを取り7名体制でスタートし、年度途中から1名復職したことで加算Ⅱを取り対応してきました。

年々相談内容が多様化・複雑化していることに加え、青葉区の規模・人口の特性から委託相談の止まらない増加傾向、対応地域・事業所としてのケース数が広がったことなどから、業務量が増えてきました。また、職員が増えたことで二人体制のサポートができるメリット（多角的視点による支援、OJTによる育成）もありましたが、日々の連携の難しさも出てきました。新年度からは体制が変わることや相談員が減ることから、新規ケースの抑制や終結ケースの見直しなども必要になりつつ、区や市の規模での相談体制の見直しも行なう必要があります。

レスパイト事業は、新規利用者受入ストップの状況を改善し、少しずつ受け入れながら日々の利用に対応してきました。また、レスパイト連絡協議会において要綱改正やマニュアルの作成にも取り組んできました。しかし、介護人の雇用化という大きな変革があり、新たな事業の形を具体化していくことが急務となっております。経営基盤の安定などの改善と緊急対応・アットホーム・個別に合わせた支援ができるなどのレスパイトのメリットの継続を同時に行っていく必要があります。

上記のような多忙さ、近隣住宅の移転、支倉保育所とのつながりの希薄化など地域のつながりや役割を担えなくなっている状況です。地域への取り組みを改めて行っていきたいと思えます。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 権利擁護員会主催の内部研修を法人内他事業所と企画し参加した。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- はせくら通信については、予定通りの時期・回数での発行をおこなった。
- イベント開催などによる地域住民との交流は行えなかった。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 防災訓練など隣接する支倉保育所と連携して行なってきた。
- しょうがい者支援としては相談支援事業所として各種会議に参加し青葉区の中で一定の役割を担っているが、地域全体での役割は生かし切れていない。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 三種特定事業所加算の継続に加え、特定事業所加算をⅢからⅡにランクアップした。また、請求漏れ分を適宜確認し未回収分を確保した。
- レスパイトにおいては収支を意識し、職員稼働率の向上を意識した。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- レスパイト連絡協議会主催の研修会の企画運営を行なった。一方で、介護人連絡会等の企画については、日々の業務に埋もれ思うように実施できなかった。
- 相談支援員に対しては先輩の同行や二人体制等OJTで育成を行った。

＜その他重点項目に対する具体的な取り組みと評価＞

重点課題	具体的取り組み	評 価
・相談支援の質の向上	・OJT や研修参加により全体のスキルアップを図る。	・研修案内、市の指定研修の受講は行えたが、個人に合わせた指定は行えず、回覧で個人の意思での派遣にとどまった。
・青葉区における地域づくりへの貢献	・区や委託・指定相談支援事業所と連携を通して市への課題提起を行う。 ・青葉区自立支援協議会へ主体的な参加	・事務局として運営面にも関わり参加した。
・サービス等利用計画作成	・他指定事業所への計画作成依頼とケース移行 ・計画作成を通して見えてきた地域課題の抽出	・委託相談からの切り替えなどを今年度の委託・計画の分離を適宜行った。地域事業所への移管は進まず、委託導入段階での計画相談事業所の紹介にとどまった。
・事業内の情報及び支援の方向性の共有	・相談員ミーティング、事例検討会議の実施 ・外部研修への参加	・定期の相談員ミーティングは実施。報告ではなくレビューしながら今後の方針、課題の共有、細情報や良い支援の共有の為に工夫が必要。
・事業内の情報共有	・利用状況、利用者・介護人の状況、環境整備等の共有など	・専任スタッフ、介護人と密に行うことが出来た。
・職員、介護人の質の向上と人材確保	・法人内レスパイト事業所と協働し、介護人を対象とした研修の実施 ・ボランティアサークルと連携し、イベントの開催 ・近隣への介護人募集チラシの設置	・研修は法人・レス連協共に行えた ・法人内での適宜のやり取り情報共有は行えたが、各種研修会の方法・内容は見直しが必要。 ・ボランティアサークルとの連携は維持した。介護人募集の具体的な動きには至らず。
・行政や他事業所間との連携	・レスパイト連絡協議会へ参加と連携。運営上の課題を整理 ・課題を連絡協議会から行政へ提起し、共に考えていく	・継続的に連絡協議会において改善に向けた検討を続けた。介護人の雇用化の動きについても、継続的に行っていく必要がある。
・環境整備	・居室や送迎車の管理、台所、トイレ、浴室の衛生管理、必要備品整備、薬品等の適切保管を行なう。	・老朽化や利用者さん使用における劣化は否めない。2～3 年後に控えている市建物大規模改修の順を待ちながら都度対応。

【 事業実施状況等 】

＜ 諸会議 ＞

会議名	開催頻度	内容
とびらミーティング	週 1 回	ケースレビュー、支援方針検討
とびらケース検討会議	随時	よりこまめな支援方針の検討を行う
とびら全ケースレビュー	年 2 回	全ケースの状況を確認、終結の検討、ケースの中断の防止
だいちミーティング	随時	情報共有と支援方針検討
チーフ会議	月 1 回	管理者、総務、相談、レスパイトで情報共有
職員会議	月 1 回	全職員で情報共有と協議事項検討

＜ 内外部研修 ＞

・法人権利擁護研修（年 2 回） ・レスパイト連絡協議会研修（年 2 回）	・法人職員研修（非常勤研修、各階級対象研修等） ・サポネットあおば（月 2～3 回） ・仙台市主催各ケアマネジメント研修 ほか
--	---

＜ 行事等 ＞

名称	開催日（頻度）	参加者数	目的など
レスパイト）そらイベント	年 3 回	約 30 名	大学サークル活動との協働

＜利用状況等＞ 「 IV 参考資料 」に掲載

8 地域生活サポートセンター「ピボット若林」事業報告

【実施事業】

- (1) 障害者相談支援事業「くれよん」※一般、指定特定、療育支援
- (2) 障害者家族支援等推進事業「すきっぷ」※遠見塚と南小泉の二カ所で実施
- (3) ホームヘルプサービス事業「ぴぽっと」※グループホームにおける居宅介護
※個人単位で居宅介護等を利用するグループホーム類型に対応する事業所
- (4) 共同生活援助事業「ひこうき雲」※グループホーム5ヶ所

○ はじめに

今年度より法人内ヘルパー事業所の再編に伴い、これまでの障害者家族支援等推進事業（レスパイト）、相談支援事業に加え、グループホーム管理センターを併設し、さらに居宅介護等を利用するグループホーム類型に対応するヘルパー事業所「ぴぽっと」を設置しました。

障害者家族支援等推進事業（レスパイト）はこれまで仙台市の補助事業として、登録介護人による有償ボランティア的な形でサービスを提供していましたが、働き方の見直し等により、労働契約の整備が必要となりました。今後のレスパイト事業のあり方が不透明であるため、法人内3か所のレスパイト事業所、仙台市レスパイト事業連絡会と連携していかねばなりません。2月、3月は新型コロナウイルスの影響による利用のキャンセルが多くありました。相談支援事業はしょうがい種別を超えた対応が求められるため様々な研修へ参加するとともに定期的に話し合いの場をもち、情報共有を行い、相談員間の連携を図りました。今年度は事業者都合により住まいの場を変えなくてはならなくなったケース等、利用者を取り巻く状況の変化による困難ケースが目立ちました。ヘルプ事業は相談事業、グループホームと連携し、居宅介護時間数の見直しを行い、支給時間数の増量を図りました。

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 地域生活支援を進める職員として、権利擁護の視点を十分にもつ。
法人「虐待防止ガイドライン」（31年4月改定予定）の共有。
- 職員会議や内部研修等において、自己チェックリスト等を活用し、日々の支援の振り返りをする機会を設ける。
権利擁護内部研修において、セルフチェックシートを活用し、職員自身の日々の支援の振り返りを行いました。内部研修において権利擁護をテーマとする研修を行いました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 地域行事へ参加し、交流を図る（資源回収、地域清掃、地域防災訓練、会報の発行等）。
- 地域の関係機関との協働（近隣の関係機関、町内会等）。
地域とつながることができるよう町内会活動（防災訓練、地域清掃等）に参加しました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 事業所としてのBCP（事業継続計画）やグループホーム（沖野地区）における洪水時の避難計画、緊急対応（行方不明等）の見直し及び整備を図る。
- 大規模震災や火災を想定した避難訓練を計画的に実施する。
- 地域交流等の取り組みの検討。
- 通信を発行し、地域社会や関係機関等へ情報を発信する。

通信（「ぼけっと」）を年3回発行し、情報の発信を行いました。地域交流等の取り組みについては、今年度は取り組むことができなかったため、次年度実施できるよう準備をすすめたと思います。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- レスパイト事業所の新規利用を増やす取り組み、レスパイト事業検討会議等で3事業の実績の共有、評価
- 相談支援における30～31年度報酬改定に対応したサービス等利用計画の実施（加算の取得）
今後のレスパイト事業のあり方が不透明なため、新規利用を増やす取り組みは実施には至りませんでした。計画相談においては、加算の取得ができるよう研修等の参加に努めました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 実際の職場での実務や外部研修参加を通して、スキルアップを図る。
- ピボット若林、GH特化型ヘルパー事業所、GH管理センターの4事業間の連携による人材育成。
- 介護人連絡会等の実施により介護人の育成に努める。

毎月の職員会議において内部研修を実施しました（内容は下記）。介護人連絡会については年2回（1回は3事業所合同）開催しましたが、次年度は回数を増やし、利用者等についての情報共有を図る機会としたいと思います。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 区自立支援協議会への参画	地域課題の抽出と整理、相談機能の強化及び連携	区自立協運営会議に相談員が参画し、課題解決に向けて連携し取り組むことができた。
(2) レスパイト連絡協議会での精査検討の継続	現制度の見直し、事業間の連携	介護人の働き方の見直し等により、労働契約の整備を行う。新規利用者の受け入れについては今年度もストップ。今後のレスパイト事業のあり方が不透明なため、制度の見直しは未検討。
(3) グループホーム管理センターとの連携	ピボット若林全体の内部研修の実施等	4事業合同での内部研修等を実施することはできなかったが、ピボット若林においては、毎月内部研修を実施。
(4) すきっぷの再整備	二か所実施の改善	今後のレスパイト事業のあり方が不透明なため、再整備については保留。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月 1 回	予定、法人関連・各事業進捗、会議・委員会報告等
チーフ会議	月 1 回	P 若全体確認事項、法人関連・各事業進捗等
各事業会議	月 1 回	前月実績確認、確認事項、ヒヤリハット・事故確認、ケース関連等
ケースレビュー、事例検討	レビュー月 2 回 事例検討月 1 回	相談員が個別に対応しているケースについてチーム内の情報共有及び検討
区自立協運営会議	月 1 回	区自立支援協議会の運営に関する会議（事務局会議）
区相談実務者ネットワーク会議	年 2 回	区の障害福祉関係者の交流（顔の見える関係作り）、各種情報共有と課題解決
仙台市レスパイ事業連絡協議会	隔月	レスパイト事業全体の課題及び人材育成（職員交換研修、全体研修会等の企画等）

< 内部研修 >

◇職員会議

- ・NHK ハートネット TV より平成が残した宿題「障害者の地域生活」（6 月）
- ・相談支援事業について～くれよんより（7 月）
- ・NHK ハートネット TV より「親亡きあと我が子は～知的・精神障害者家族の願い」（8 月）
- ・ゆにぷろ通信より「頭に入りやすい/入りにくい」「薬」と環境（9 月）
- ・権利擁護内部研修（10 月）
- ・レスパイト事業について～すきっぷより（11 月）
- ・サービス等利用計画、担当者会議等について～くれよんより（12 月）
- ・たけしくんがラーメンを好きになったわけ（差別解消法紙芝居作家清水明彦氏）上映（1 月）
- ・NHK ハートネット TV より「亜由未が教えてくれたこと」（2 月）

< 外部研修 >

・障害者保健福祉新任職員研修会（1 名） ・精神保健福祉基礎講座（1 名） ・ダウン症児の食べる力（1 名） ・社会福祉法人会計実務セミナー（1 名） ・仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修（1 名） ・小児慢性特定疾病医療講演会（1 名） ・新卒採用ポイント講座（1 名） ・相談支援部会研修会（1 名） ・会計担当職員研修（2 名） ・計画相談支援実務研修会（1 名） ・同一労働同一賃金の新ルールについて（1 名） ・強度行動障害支援者研修（基礎/実践）（1 名） ・県社協職員のモチベーションアップ研修（1 名） ・県障害者相談支援従事者初任者研修（1 名）	・仙台市レスパイト連絡協議会研修報告会（3 名） ・会計担当職員研修（応用編）（2 名） ・長期入院精神障害者のリハビリ支援（1 名） ・かかりつけ医等の心の健康対応力向上研修会（1 名） ・コロニー福祉セミナー（1 名） ・リーの会研修会（1 名） ・障害のある方とご家族のための将来への備えセミナー（2 名） ・医療的ケア児等コーディネーター養成研修（1 名） ・県相談支援従事者現任研修（2 名） ・県医療観察制度研修会（1 名） ・県障害者相談支援従事者専門コース別研修会（1 名） ・相談支援者向け発達障害支援実践講座（1 名） ・仙台市レスパイト連絡協議会研修会（2 名）
---	--

9 グループホーム 事業報告

【実施事業】

(1) 障害福祉サービス事業（共同生活援助5ヶ所/ひこうき雲）

○ はじめに

グループホームでは、現在入居者24名（男性15名、女性9名）が暮らしています。今年度よりグループホーム管理センターをピボット若林に併設しました。これまでは管理者、サービス管理責任者、事務員の3者がそれぞれの場所で事務的な作業等を行っていましたが、グループホーム管理センターの開設により、情報の共有等が円滑になりました。さらにヘルパー事業の再編に伴い、個人単位で居宅介護等を利用するグループホーム類型に対応したヘルパー事業所「ぴぼっと」をピボット若林に設置したことにより、グループホームとヘルプ事業（ぴぼっと）が連携し、利用実績を安定することができました。

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 各ホーム職員会議や職員全体研修会において、自己チェックリスト等を活用し、日々の支援の振り返りをする機会を設ける。
- 法人「虐待防止ガイドライン」（31年4月改定予定）の共有。
- 入居者懇談会を開催し、入居者の声をホーム運営にいかす。

職員全体研修会において、昨年度に引き続き、セルフチェックシートを活用し、職員自身の日々の支援の振り返りを行いました。さらに、権利擁護内部研修では、事例を通してどのような関わりがよいのか意見交換する機会を設けました。

入居者懇談会は、入居者同士で各ホームの様子を聞き、ホームで困っていること等を話題にする機会となっています。今年度も「グループホームでいきいきと」（日本GH学会）を活用しながら、グループホームの暮らしについて入居者が感じていること等の聞き取りを行う機会を持ちました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 町内会活動に参加し、地域住民同士のつながりをもつ。
- 一住民として、地域とつながることができるよう町内会活動（夏祭り、防災訓練、地域清掃等）に参加し、地域社会におけるしょうがい者理解に努めました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 大規模震災や火災、洪水を想定した避難訓練を計画的に実施する。
- グループホーム通信（「ももたろう通信」）を発行し、地域社会や関係機関等へ情報を発信する。

各ホームにおいて、消防訓練を年2回以上実施し、夜間を想定した訓練を実施しました。また南部2ヶ所のグループホームは、洪水の際の危険区域となっているため、洪水時の避難確保計画に基づき、避難想定場所のピボット若林までの避難訓練を行いました。

グループホーム通信（「ももたろう通信」）を年3回発行し、グループホームの入居者の生活等について情報の発信を行いました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- グループホームにおける居宅介護の利用実績の増加。
- 三交替制導入に向けた労働形態の見直し。

国の施策（グループホームへの給付）が十分とは言えない現状においては、財政面はとても厳し

い状況にあり、グループホームにおける居宅介護の積極的活用等による運営に努めました。グループホームにおける居宅介護利用については、令和3年3月末までの経過措置となっているため、引き続き関係団体とともに恒久化に向けた要望をしていきたいと思ひます。

夜勤勤務に関しては、長時間勤務回避のために勤務形態の見直しを図りたいと考えていますが、今年度はシフトの見直し等具体的な話をすすめることはできませんでした。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- グループホーム管理センターの開設による職員間の連携強化。
- 実際の職場での実務や外部研修参加を通して、スキルアップを図る。
- 各ホーム職員会議及び職員全体研修会（年2回）を実施する。
- 法人内の他グループホームでの現場実習を実施する。

グループホーム職員は勤務形態上、外部の研修に参加する機会が少ないため、毎月の職員会議において内部研修（内容は下記参照）を実施し、スキルアップを図りました。

グループホーム全体の職員を対象とした研修を年3回（6月、11月（権利擁護内部研修）、1月）実施し、担当グループホーム以外の職員と意見交換する機会を設けました。今年度は職員体制が十分ではなかったため、法人内の他グループホームでの現場実習は未実施となりました。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 本人中心の個別支援計画の推進	各ホーム職員会議の定期的開催及びケース検討会の実施	各ホーム職員会議にて、個別支援計画の内容について情報共有ができた。業務日誌の書式の見直しを行い、日々の入居者状況の引継ぎ等を円滑に行えるようになった。
(2) 通所施設等との連携強化	日々の入居者状況の連絡（引継ぎ）	日々のグループホームと通所施設での連絡（引継ぎ）以外に必要な応じて、ケア会議を実施し、タイムリーな情報共有ができた。
(3) グループホーム管理センターの開設	職員間の連携強化(管理者、総務、サビ管等)、人材育成	グループホーム管理センターの開設により、職員間の連携が強化された(管理者、総務、サビ管等)。
(4) 他法人 GH 等との連携	GH に関する勉強会、研修会への参加	仙台市グループホーム連絡会に加入し、研修会へ参加する等して、連携・情報交換ができた。 日本グループホーム学会全国大会（東京）へ入居者2名が参加。

○ その他の活動

- 関係機関（他 GH、日本 GH 学会等）と連携し、グループホーム運営等に関する情報収集を図る。
- 仙台市グループホーム連絡会へ参画し、グループホームに関する情報収集及び事業所間の交流を図る。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月 2 回	法人、GH 運営の方向性、事業報告、課題検討等
職員会議	月 1 回	GH 運営の方向性、課題検討、意見交換、内部研修等
各ホームミーティング	月 1 回	諸会議報告、個別支援計画状況確認、意見交換等
各ホーム職員会議	隔月 1 回	入居者状況把握、個別支援計画確認、意見交換等
個別支援計画会議	年度初/中間/ 年度末	個別支援計画立案、見直し、検討等
家族懇談会	年 2 回程度	GH 全体状況確認、入居者状況把握、意見交換等
各グループホーム連絡会	年 3 回程度	GH・通所事業所の情報共有、意見交換等
入居者懇談会	月 1 回	意見交換、入居者イベント企画等

※ その他法人内各種委員会へ委員会担当が参加

< 内部研修 >

◇グループホーム職員会議 ・NHK ハートネット TV より平成が残した宿題「障害者の地域生活」(4 月) ・「グループホーム援助のポイント(日本 GH 学会刊行)より」(5 月) ・理解と対応～事例検討(にじいろ入居者)(さくらほうす入居者)(6 月) ・個別支援計画について(8 月) ・理解と対応～事例検討(にじいろ入居者)(ひかりほうす入居者)(9 月) ・「でらーと」リフレクソロジーについて(10 月) ・「自閉症の君が教えてくれたこと」上映(11 月) ・仙台市グループホーム連絡会視察研修報告(12 月) ・視察研修報告会～さざんか会(1 月) ・今年度の事故の振り返り～事故報告集計より(3 月)	◇グループホーム職員全体研修会 ・第 1 回職員全体研修会(6/13. 幸町市民センターにて)「仕事にやりがいを感じるこゝと」～ワールドカフェ、「グループホーム入居者に関わる 1 問 1 答自己チェック」 ・権利擁護委員会主催内部研修(11/18. A 型センターにて)「セルフチェックシートの記入やグループワークを通して、自らの支援の振り返り」 ・第 2 回職員全体研修会(1/30. A 型センターにて)「成功体験を知ろう」～ワールドカフェ、感染症マニュアルについて ・法人全体非常勤職員等研修会(6/29. 仙台つどいの家にて)
---	---

< 外部研修 >

・福祉協会第 31 回全国グループホーム等研修会(1 名) ・仙台市グループホームセミナー(4 名) ・宮城県サービス管理責任者等更新研修(1 名) ・県社協職場のモチベーションアップ研修(1 名) ・県社協アサーティブ研修(1 名) ・県社協リーダーのためのコーチング研修(1 名) ・県社協コミュニケーション技術、対人援助技術研修(1 名)	・同行援護従事者養成研修(1 名) ・コロニー福祉セミナー(3 名) ・県社協パワハラ防止、アンガーマネジメント研修(2 名) ・リーの会研修(3 名) ・仙台市グループホーム連絡会視察研修(千葉県)(1 名) ・仙台市グループホームセミナー(5 名)
--	---

IV 參考資料

1 日中活動支援部門 利用実績

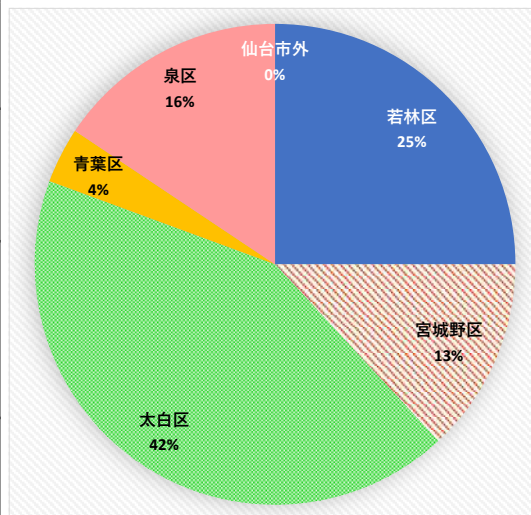
■利用者出欠状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		開所日数	20	20	21	23	21	20	22	20	21	19	19	21	247	
仙台つどいの家	仙台	利用予定者数	740	788	751	825	751	709	814	740	803	703	673	777	9,074	
		実利用者数	671	671	689	741	650	613	753	689	720	659	598	714	8,168	
		利用率	90.7%	85.2%	91.7%	89.8%	86.6%	86.5%	92.5%	93.1%	89.7%	93.7%	88.9%	91.9%	90.0%	
	さんしょ	利用予定者数	129	139	98	106	100	92	108	92	105	92	87	100	1,248	
		実利用者数	88	85	79	87	88	83	83	72	67	71	71	88	962	
		利用率	68.2%	61.2%	80.6%	82.1%	88.0%	90.2%	76.9%	78.3%	63.8%	77.2%	81.6%	88.0%	77.1%	
	合計	利用予定者数	869	927	849	931	851	801	922	832	908	795	760	877	10,322	
		実利用者数	759	756	768	828	738	696	836	761	787	730	669	802	9,130	
		利用率	87.3%	81.6%	90.5%	88.9%	86.7%	86.9%	90.7%	91.5%	86.7%	91.8%	88.0%	91.4%	88.5%	
		一日平均	37.95	37.80	36.57	36.00	35.14	34.80	38.00	38.05	37.48	38.42	35.21	38.19	36.96	
つどいの家・コベル		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		開所日数	20	20	21	23	19	20	22	21	20	20	19	22	247	
	コベル①	利用予定者数	351	372	388	421	371	373	411	393	372	331	364	405	4,552	
		実利用者数	333	360	386	409	367	363	392	383	338	311	342	394	4,378	
		利用率	94.9%	96.8%	99.5%	97.1%	98.9%	97.3%	95.4%	97.5%	90.9%	94.0%	94.0%	97.3%	96.2%	
	コベル②	利用予定者数	387	378	389	433	375	368	421	397	384	335	344	405	4,616	
		実利用者数	355	354	375	416	352	348	384	368	346	291	315	378	4,282	
		利用率	91.7%	93.7%	96.4%	96.1%	93.9%	94.6%	91.2%	92.7%	90.1%	86.9%	91.6%	93.3%	92.8%	
	オリザ	利用予定者数	89	91	100	102	84	88	95	88	91	81	88	98	1,095	
		実利用者数	57	50	56	62	47	45	50	29	57	51	38	52	594	
		利用率	64.0%	54.9%	56.0%	60.8%	56.0%	51.1%	52.6%	33.0%	62.6%	63.0%	43.2%	53.1%	54.2%	
	合計	利用予定者数	827	841	877	956	830	829	927	878	847	747	796	908	10,263	
		実利用者数	745	764	817	887	766	756	826	780	741	653	695	824	9,254	
		利用率	90.1%	90.8%	93.2%	92.8%	92.3%	91.2%	89.1%	88.8%	87.5%	87.4%	87.3%	90.7%	90.2%	
一日平均		37.25	38.20	38.90	38.57	40.32	37.80	37.55	37.14	37.05	32.65	36.58	37.45	37.47		
つどいの家・アプリ		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		開所日数	20	20	21	23	19	21	22	22	21	20	19	21	249	
	アプリ	利用予定者数	613	613	637	687	542	631	660	660	611	578	548	544	7,324	
		実利用者数	566	543	579	628	481	576	603	565	567	520	495	544	6,667	
		利用率	92.3%	88.6%	90.9%	91.4%	88.7%	91.3%	91.4%	85.6%	92.8%	90.0%	90.3%	100.0%	91.0%	
		一日平均	28.30	27.15	27.57	27.30	25.32	27.43	27.41	25.68	27.00	26.00	26.05	25.90	26.78	
	ミント	開所日数	20	20	21	22	17	21	22	21	21	20	18	20	243	
		利用予定者数	116	115	123	127	102	119	129	124	123	118	105	91	1,392	
		実利用者数	101	103	108	117	93	112	119	92	93	90	85	91	1,204	
		利用率	87.1%	89.6%	87.8%	92.1%	91.2%	94.1%	92.2%	74.2%	75.6%	76.3%	81.0%	100.0%	86.5%	
	合計	一日平均	5.05	5.15	5.14	5.32	5.47	5.33	5.41	4.38	4.43	4.50	4.72	4.55	4.95	
		利用予定者数	729	728	760	814	644	750	789	784	734	696	653	635	8,716	
		実利用者数	667	646	687	745	574	688	722	657	660	610	580	635	7,871	
		利用率	91.5%	88.7%	90.4%	91.5%	89.1%	91.7%	91.5%	83.8%	89.9%	87.6%	88.8%	100.0%	90.3%	
つどい八木の山家		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		開所日数	21	20	20	22	19	18	21	21	20	19	18	21	240	
	八木山	利用予定者数	315	300	300	330	285	270	294	294	280	266	252	294	3,480	
		実利用者数	282	287	269	316	274	268	277	271	265	246	242	285	3,282	
		利用率	89.5%	95.7%	89.7%	95.8%	96.1%	99.3%	94.2%	92.2%	94.6%	92.5%	96.0%	96.9%	94.3%	
		一日平均	13.43	14.35	13.45	14.36	14.42	14.89	13.19	12.90	13.25	12.95	13.44	13.57	13.68	
	若林障害者福祉センター		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
			開所日数	21	23	21	22	23	20	22	22	19	19	19	20	251
		生活介護	利用予定者数	80	89	78	84	87	76	90	92	81	81	87	86	1,011
			実利用者数	57	62	54	66	65	55	70	60	56	58	59	61	723
			利用率	71.3%	69.7%	69.2%	78.6%	74.7%	72.4%	77.8%	65.2%	69.1%	71.6%	67.8%	70.9%	71.5%
			利用予定者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		生活訓練	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			利用率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計			利用予定者数	80	89	78	84	87	76	90	92	81	81	87	86	1,011
			実利用者数	57	62	54	66	65	55	70	60	56	58	59	61	723
		利用率	71.3%	69.7%	69.2%	78.6%	74.7%	72.4%	77.8%	65.2%	69.1%	71.6%	67.8%	70.9%	71.5%	
		一日平均	2.71	2.70	2.57	3.00	2.83	2.75	3.18	2.73	2.95	3.05	3.11	3.05	2.88	
日中活動部門 法人合計		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		利用予定者数	2,820	2,885	2,864	3,115	2,697	2,726	3,022	2,880	2,850	2,585	2,548	2,800	33,792	
		実利用者数	2,510	2,515	2,595	2,842	2,417	2,463	2,731	2,529	2,509	2,297	2,245	2,607	30,260	
		利用率	89.0%	87.2%	90.6%	91.2%	89.6%	90.4%	90.4%	87.8%	88.0%	88.9%	88.1%	93.1%	89.5%	
		一日平均 (1事業所あたり)	124.69	125.35	124.21	124.55	123.49	123.00	124.74	120.89	122.15	117.57	119.11	122.72	122.71	

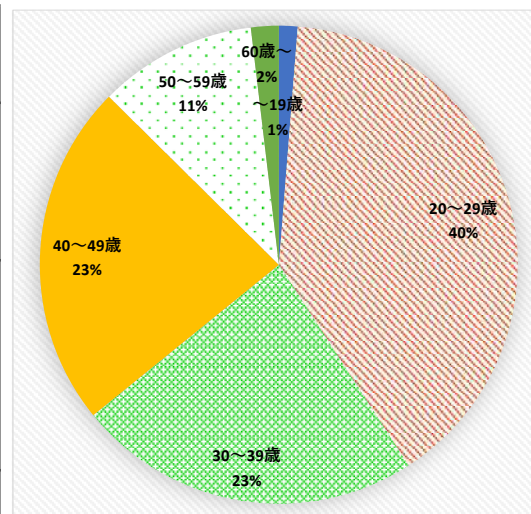
■利用者居住地

		若林区	宮城野区	太白区	青葉区	泉区	仙台市外	合計
つといの家 仙台	仙台	1	11	1	3	21	0	37
	さんしょ	0	2	0	0	4	0	6
	合計	1	13	1	3	25	0	43
つといの家 コペルの家	コペル①	9	2	8	0	0	0	19
	コペル②	14	3	6	1	0	0	24
	オリザ	3	2	3	0	0	0	8
	合計	26	7	17	1	0	0	51
つといの家 アプリの家	アプリ	1	0	31	0	0	0	32
	ミント	0	0	7	0	0	0	7
	合計	1	0	38	0	0	0	39
つといの家 八木の家	生活介護	2	0	10	2	0	0	14
福祉センター 若林障害者	生活介護	10	1	2	0	0	0	13
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0
	合計	10	1	2	0	0	0	13
法人 通所合計	合計	40	21	68	6	25	0	160



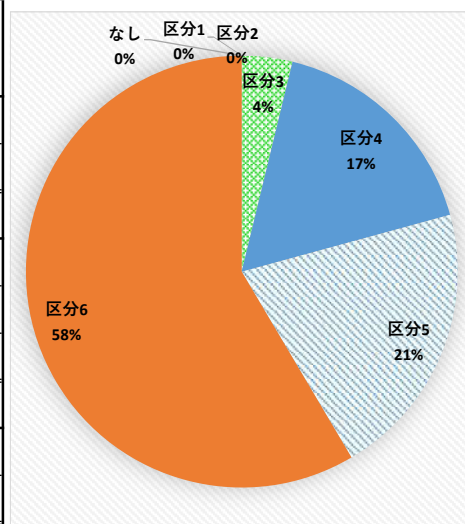
■利用者年齢区分

		～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
仙台つといの家	仙台	0	10	6	16	5	0	37
	さんしょ	0	3	0	3	0	0	6
	合計	0	13	6	19	5	0	43
つといの家 コペルの家	コペル①	0	7	7	4	1	0	19
	コペル②	0	3	6	7	5	3	24
	オリザ	0	3	3	1	1	0	8
	合計	0	13	16	12	7	3	51
つといの家 アプリの家	アプリ	1	12	5	2	1	0	21
	ミント	0	11	4	2	1	0	18
	合計	1	23	9	4	2	0	39
つといの家 八木の家	生活介護	1	8	2	1	2	0	14
福祉センター 若林障害者	生活介護	0	6	4	1	1	0	12
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	6	4	1	1	0	12
法人 通所合計	合計	2	63	37	37	17	3	159



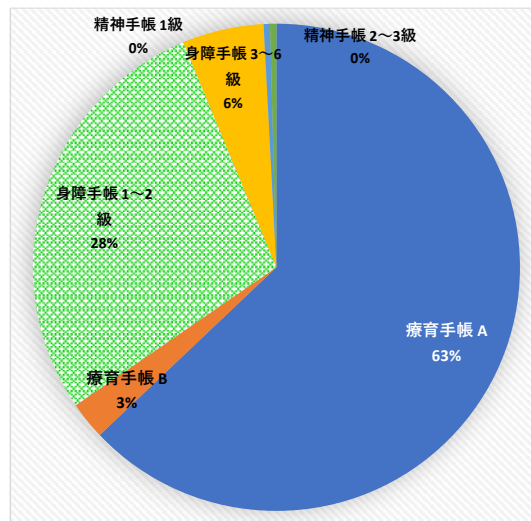
■障害支援区分

		なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
つといの家 仙台家	仙台	0	0	0	3	10	6	18	5.1
	さんしょ	0	0	0	0	0	0	6	6.0
	合計	0	0	0	3	10	6	24	5.2
つといの家 コペルの家	コベル①	0	0	0	1	4	6	8	5.1
	コベル②	0	0	0	0	3	3	18	5.6
	オリザ	0	0	0	0	0	0	8	6.0
	合計	0	0	0	1	7	9	34	5.5
つといの家 アプリの家	アプリ	0	0	0	1	4	7	20	5.4
	ミント	0	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	0	1	4	7	27	5.5
つといの家 八木山家	生活介護	0	0	0	1	5	6	2	4.6
障害福祉センター	生活介護	0	0	0	0	1	5	6	5.4
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	0	0	0	0	1	5	6	5.4
法人 通所合計	合計	0	0	0	6	27	33	93	5.3



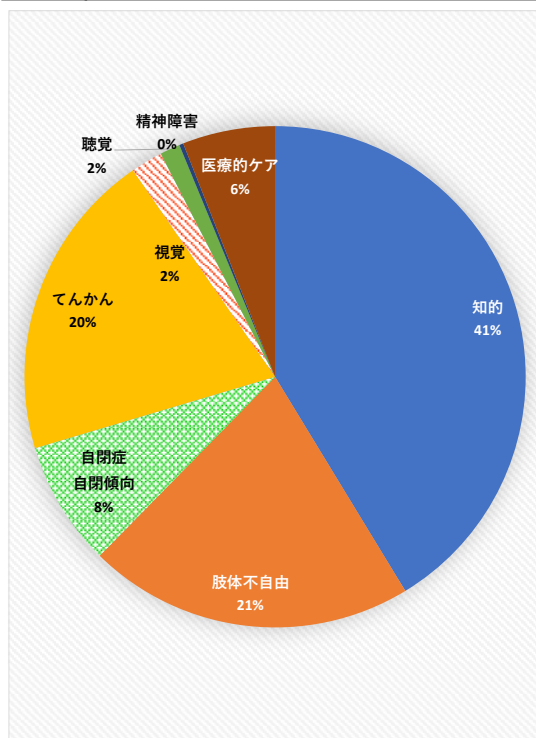
■手帳保持状況

		療育手帳		身障手帳		精神手帳	
		A	B	1 級 2 級	3 級 6 級	1 級 2 級	3 級
つといの家 仙台家	仙台	36	1	12	8	0	0
	さんしょ	6	0	6	0	0	0
	合計	42	1	18	8	0	0
つといの家 コペルの家	コベル①	19	0	1	1	0	0
	コベル②	21	1	14	3	0	0
	オリザ	8	0	8	0	0	0
	合計	48	1	23	4	0	0
つといの家 アプリの家	アプリ	31	1	14	0	0	0
	ミント	7	0	7	0	0	0
	合計	38	1	21	0	0	0
つといの家 八木山家	生活介護	12	2	2	1	1	1
障害福祉センター	生活介護	11	1	4	0	0	0
	生活訓練	0	0	0	0	0	0
	合計	11	1	4	0	0	0
法人 通所合計	合計	151	6	68	13	1	1



■利用者障害種別

		知的	肢体不自由	自閉傾向 自閉症	てんかん	視覚	聴覚	精神障害	医療的ケア
つどいの家 仙台	仙台	37	18	12	18	3	5	0	3
	さんしょ	6	6	1	6	1	0	0	5
	合計	43	24	13	24	4	5	0	8
つどいの家 コペル	コペル①	19	2	6	5	1	0	0	0
	コペル②	24	20	0	14	1	0	0	0
	オリザ	8	8	0	8	0	0	0	8
	合計	51	30	6	27	2	0	0	8
つどいの家 アプリ	アプリ	32	15	10	16	1	0	1	0
	ミント	7	7	0	5	1	0	0	4
	合計	39	22	10	21	2	0	1	4
つどいの山家	生活介護	14	1	7	3	1	0	2	0
福祉センター 若林障害者	生活介護	12	4	2	5	0	0	0	3
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	12	4	2	5	0	0	0	3
法人 通所合計	合計	159	81	31	77	8	5	1	23



2 地域生活支援部門 利用実績

■ すてっぷ・はうす 事業実績

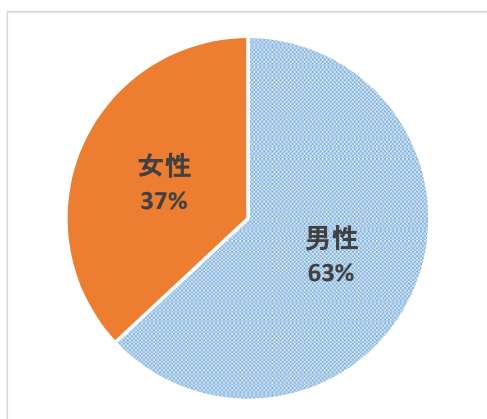
(令和2年3月末日時点)

利用登録者数 : 92名(平成30年度比: -1名)

1. 利用登録者状況

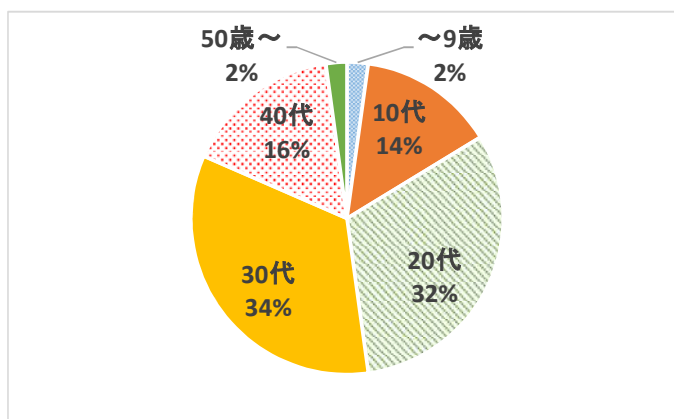
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	58	34



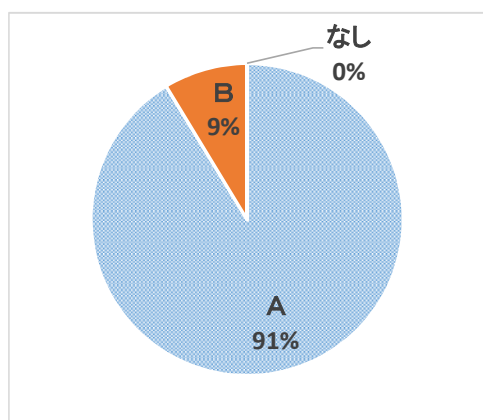
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	2	13	29	31	15	2



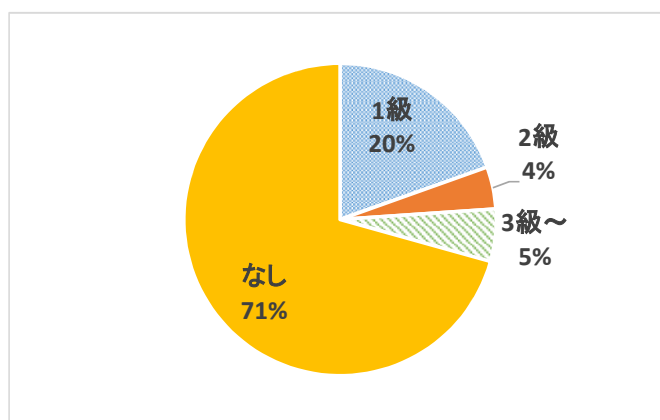
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	84	8	0



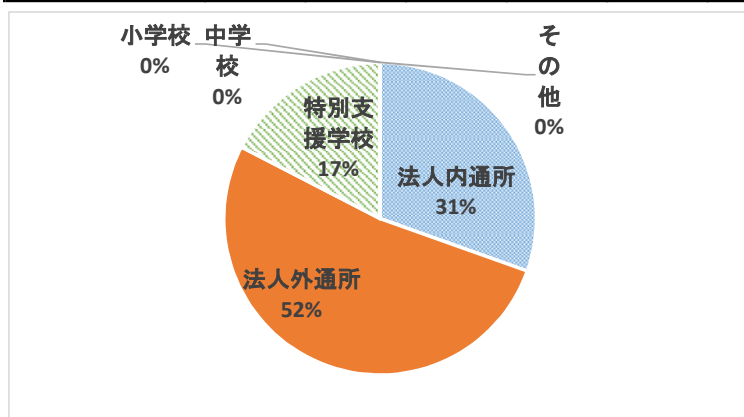
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	18	4	5	65



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	28	48	16	0	0	0



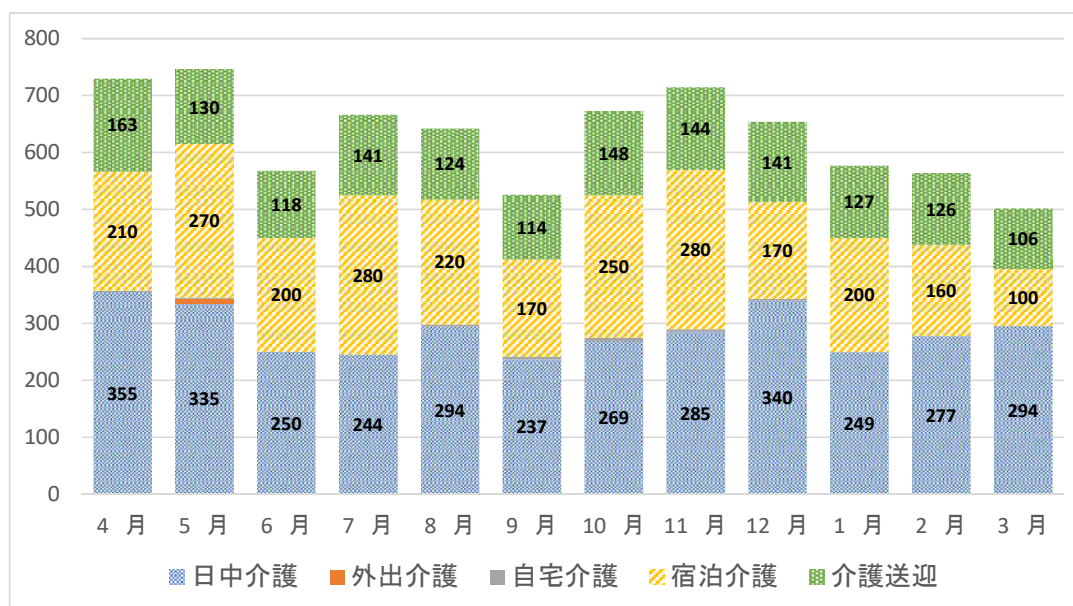
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	355	0	2	210	163	730
5 月	335	8	2	270	130	745
6 月	250	0	0	200	118	568
7 月	244	0	1	280	141	666
8 月	294	0	4	220	124	642
9 月	237	0	5	170	114	526
10 月	269	0	6	250	148	673
11 月	285	0	5	280	144	714
12 月	340	0	3	170	141	654
1 月	249	0	1	200	127	577
2 月	277	0	1	160	126	564
3 月	294	0	2	100	106	502
合 計	3,429	8	32	2,510	1,582	7,561

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間

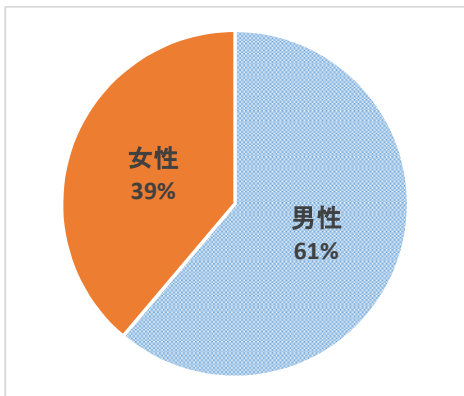


利用登録者数 : 85名 (平成30年度比:-5名)

1. 利用登録者状況

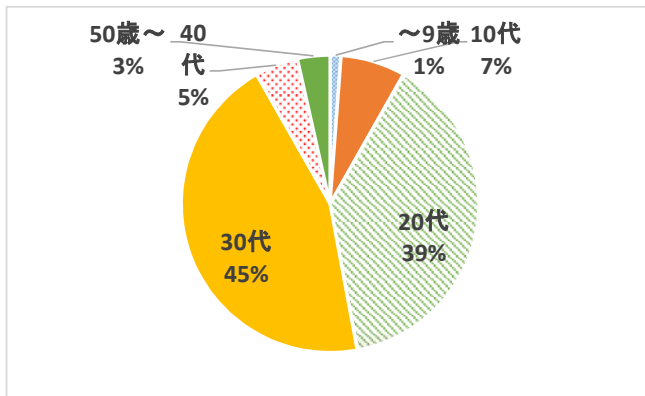
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	52	33



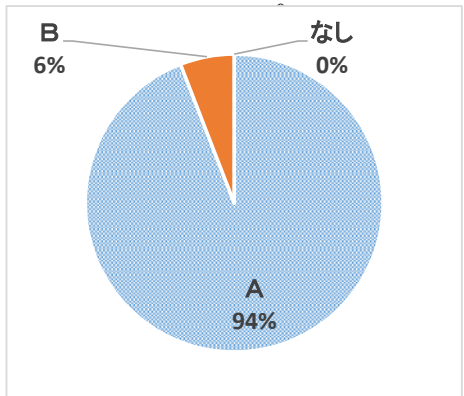
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	6	33	38	4	3



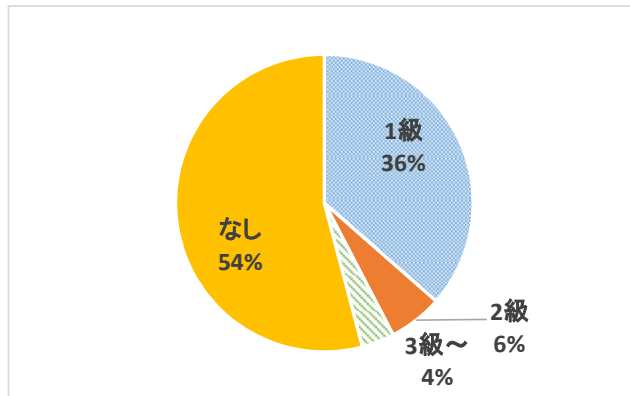
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	80	5	0



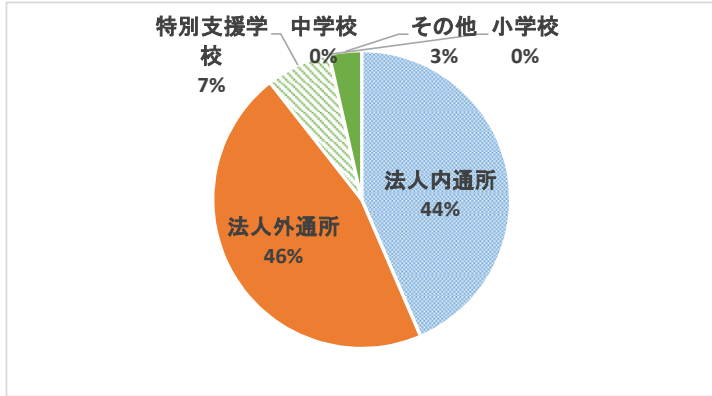
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	31	5	3	46



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	37	39	6	0	0	3



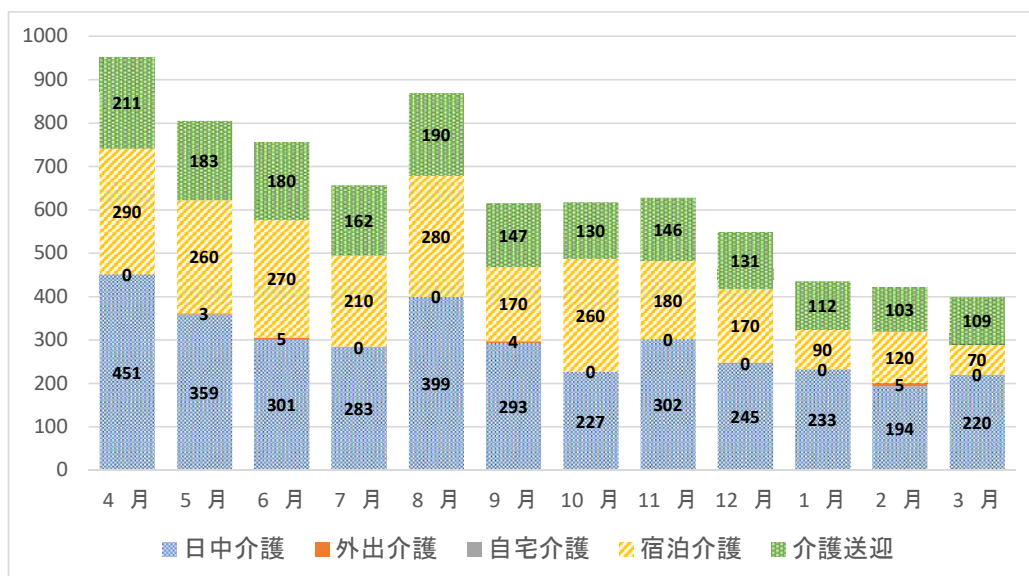
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	451	0	0	290	211	952
5 月	359	3	0	260	183	805
6 月	301	5	0	270	180	756
7 月	283	0	2	210	162	657
8 月	399	0	0	280	190	869
9 月	293	4	1	170	147	615
10 月	227	0	0	260	130	617
11 月	302	0	0	180	146	628
12 月	245	0	3	170	131	549
1 月	233	0	0	90	112	435
2 月	194	5	0	120	103	422
3 月	220	0	0	70	109	399
合 計	3,507	17	6	2,370	1,804	7,704

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間

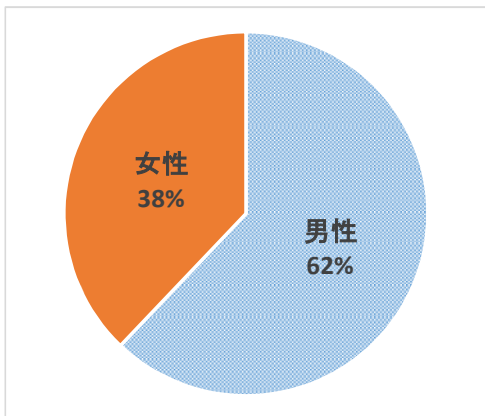


利用登録者数：95名(平成30年度比：-5名)

1. 利用登録者状況

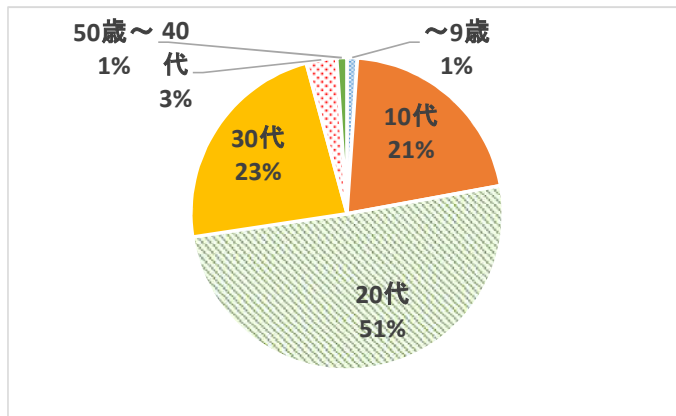
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	59	36



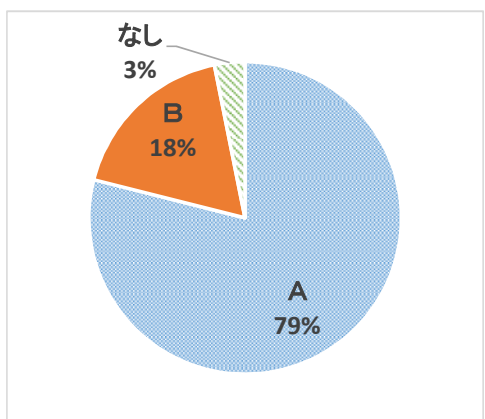
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	20	48	22	3	1



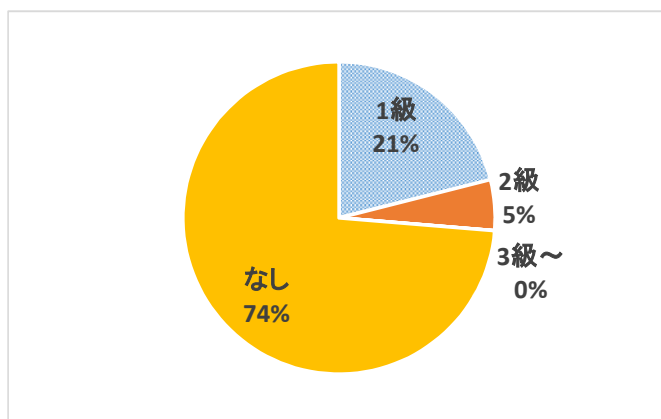
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	75	17	3



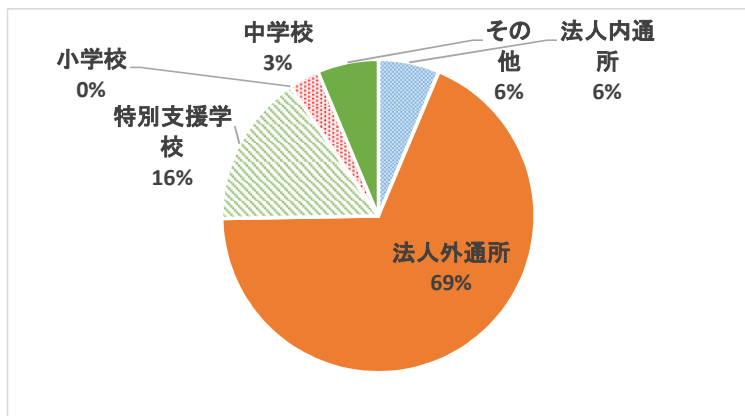
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	20	5	0	70



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	6	65	15	0	3	6



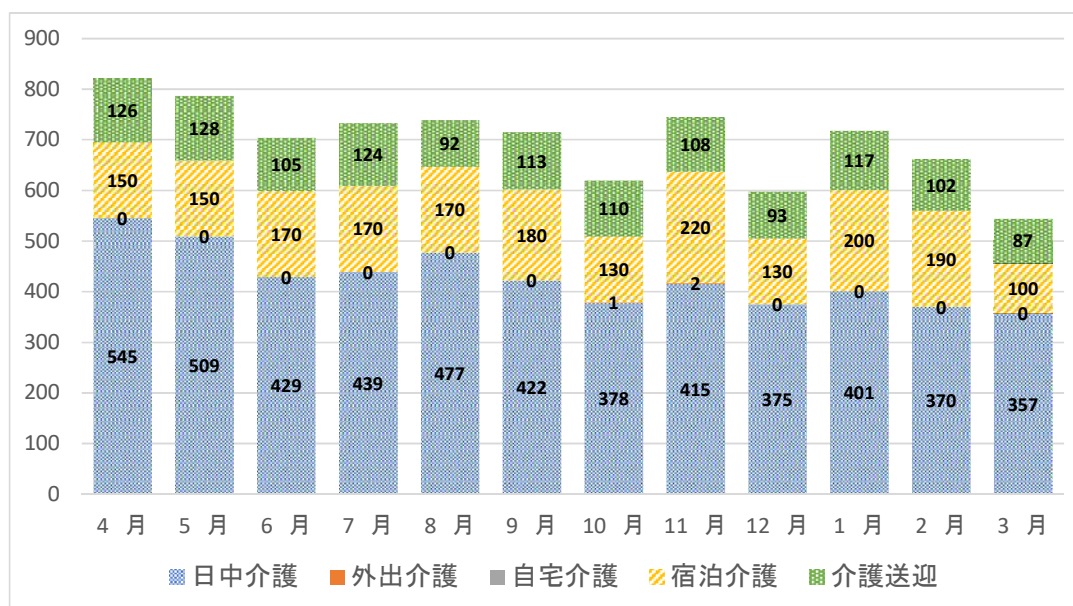
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	545	0	0	150	126	821
5 月	509	0	0	150	128	787
6 月	429	0	0	170	105	704
7 月	439	0	0	170	124	733
8 月	477	0	0	170	92	739
9 月	422	0	0	180	113	715
10 月	378	1	0	130	110	619
11 月	415	2	0	220	108	745
12 月	375	0	0	130	93	598
1 月	401	0	0	200	117	718
2 月	370	0	0	190	102	662
3 月	357	0	0	100	87	544
合 計	5,117	3	0	1,960	1,305	8,385

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間



■ 福祉有償運送 事業実績

(令和2年3月末日時点)

1. 利用登録者状況

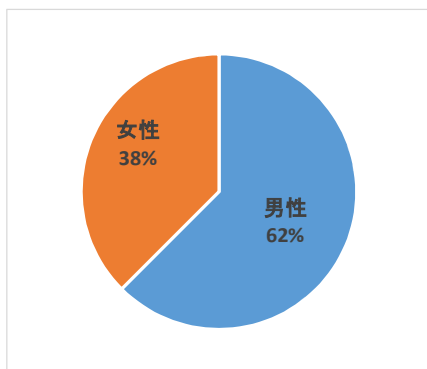
【総 数】

実施事業所名	平成31年度(令和元年)	平成30年度	前年度比
びぼっと南光台	8	8	0

※P若林、P支倉は平成29年9月末日をもって事業終了

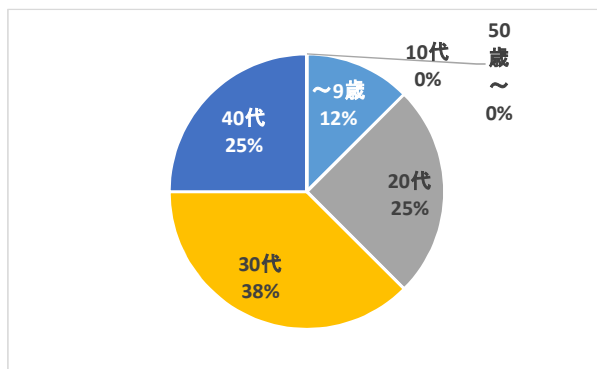
【性 別】

事業所名	男性	女性
びぼっと南光台	5	3



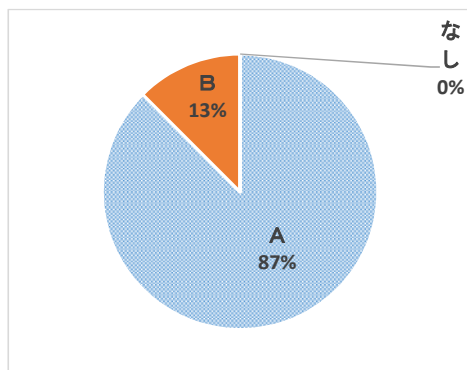
【年齢別】

事業所名	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
びぼっと南光台	1	0	2	3	2	0



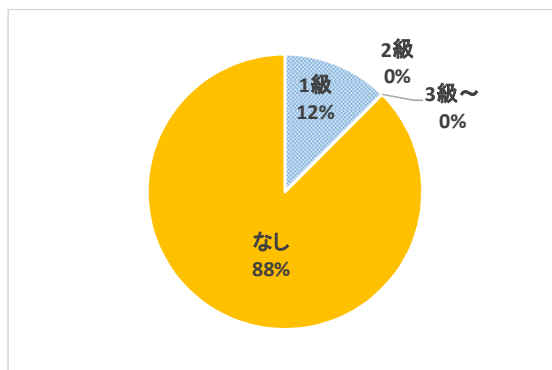
【療育手帳】

事業所名	A	B	なし
びぼっと南光台	7	1	0



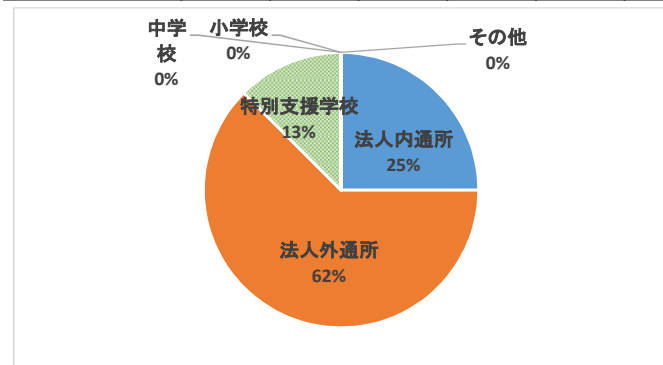
【身障手帳】

事業所名	1級	2級	3級～	なし
びぼっと南光台	1	0	0	7



【在 籍】

事業所名	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
びぼっと南光台	2	5	1	0	0	0

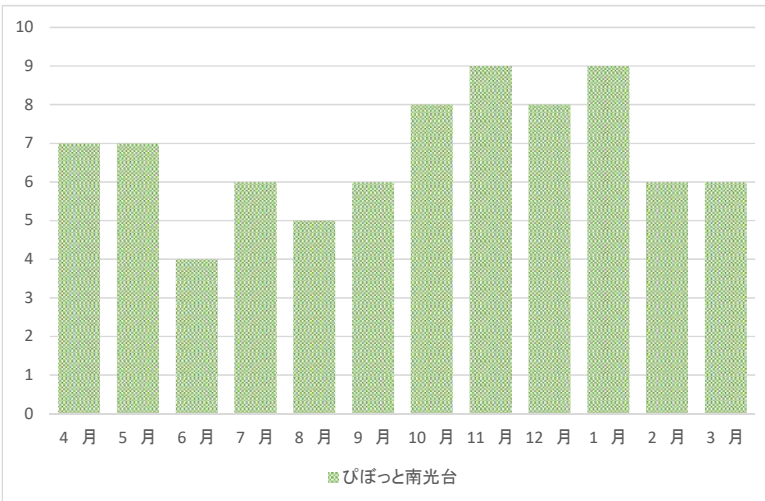


2. 利用状況

【月別運行回数】

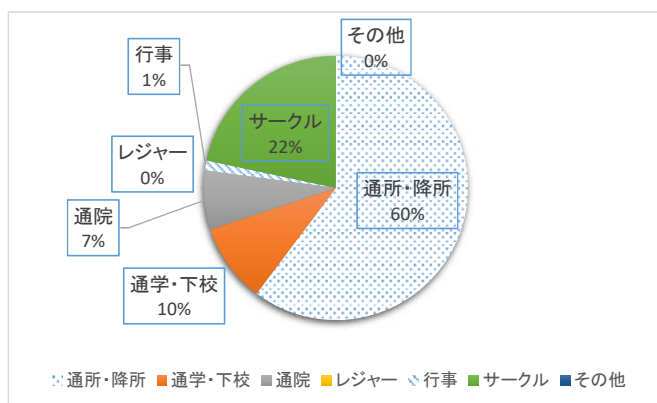
(単位:回)

	びぼっと南光台
4 月	7
5 月	7
6 月	4
7 月	6
8 月	5
9 月	6
10 月	8
11 月	9
12 月	8
1 月	9
2 月	6
3 月	6
合 計	81



【利用目的別】

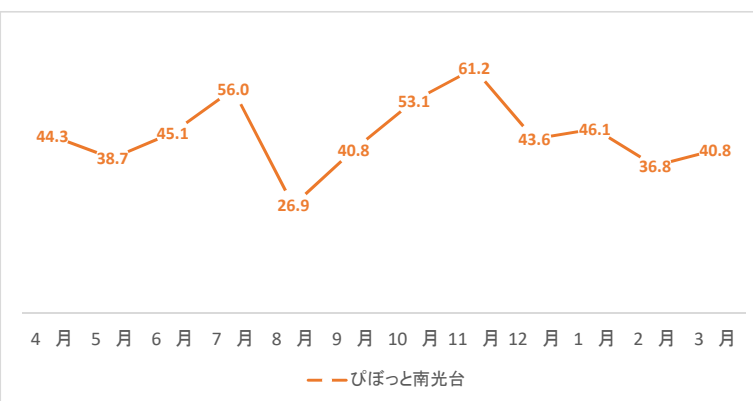
事業所名	通所・降所	通学・下校	通院	レジャー	行事	サークル	その他
びぼっと南光台	50	8	6	0	1	18	0



【事業所別 移送距離】

(単位:km)

	びぼっと南光台
4 月	44.3
5 月	38.7
6 月	45.1
7 月	56.0
8 月	26.9
9 月	40.8
10 月	53.1
11 月	61.2
12 月	43.6
1 月	46.1
2 月	36.8
3 月	40.8
合 計	533.4



■ 障害者相談支援事業所「とびら」 事業実績

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家							
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ぴぽっと支倉 障害者相談支援事業所 とびら							
	住 所	青葉区支倉町2－35 ぴぽっと支倉内							
委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	225	27	11	120	51	17	0	2	5
障害児	155	12	8	78	3	39	2	0	4
計	380	39	19	198	54	56	2	2	9
支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	567	149	166	1023	194	113	1492	0	3704
支 援 内 容									
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済		
延件数	1666	281	276	201	116	259	157		
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0	0	0		
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他				合計
延件数	376	278	50	26	46				3732
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0				0

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	6	5	7	6	7	5	8	5	5	6	8	6	74.0
療育技術指導事業	2	2	2	2	1	1	0	1	1	2	2	1	17.0
計	8	7	9	8	8	6	8	6	6	8	10	7	91.0

平成31年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	17	22	22	24	24	23	26	24	26	33	26	26	293.0	24.4
モニタリング	67	72	70	61	69	61	66	79	82	73	77	71	848.0	70.7
計	84	94	92	85	93	84	92	103	108	106	103	97	#####	95.1

■ 障害者相談支援事業所「くれよん」 事業実績

(令和2年3月末日時点)

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家							
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ピボット若林 障害者相談支援事業所 くれよん							
	住 所	若林区遠見塚2-16-15 ピボット若林内							
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	38	2	1	26	6	10	0	0	0
障害児	11	3	2	4	0	4	0	0	1
計	49	5	3	30	6	14	0	0	1
支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	48	27	31	168	17	66	281	0	638
支 援 内 容									
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済		
延件数	405	100	71	83	66	145	12		
ピアカウンセラー(再掲)	0	0	0	0	0	0	0		
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他			合計	
延件数	56	59	17	2	14			1030	
ピアカウンセラー(再掲)	0	0	0	0	0			0	

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
療育技術指導事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

平成31年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	15	15	8	8	14	5	12	8	11	13	9	6	124.0	10.3
モニタリング	22	21	18	19	28	29	33	35	22	33	36	28	324.0	27.0
計	37	36	26	27	42	34	45	43	33	46	45	34	448.0	37.3

■ ぴぽっと 事業実績

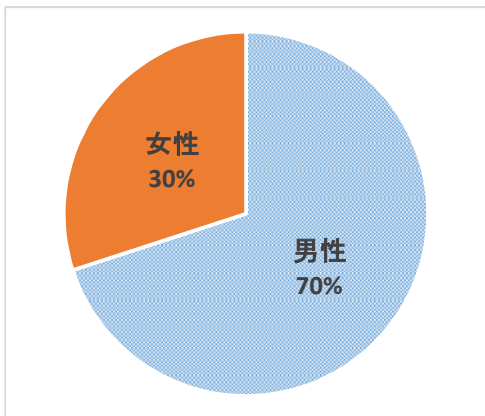
(令和2年3月末日時点)

利用登録者数 :20名

1. 利用登録者状況

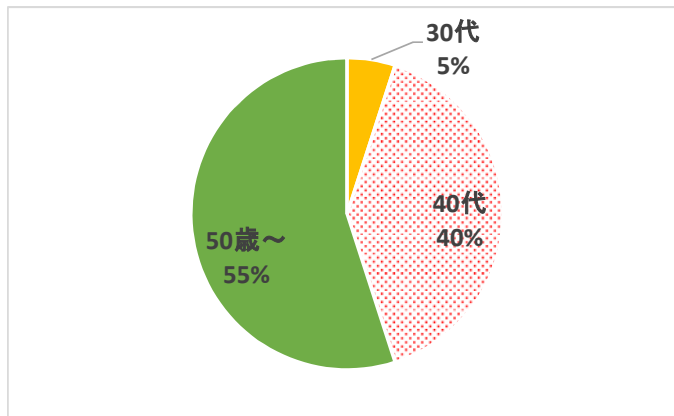
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	14	6



【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	0	0	1	8	11



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	0	20	0	0	0	0	0



2. 利用状況

(単位:時間)

	令和元年度
居宅介護	16,426.0
同行援護	274.0
合計	16,700.0

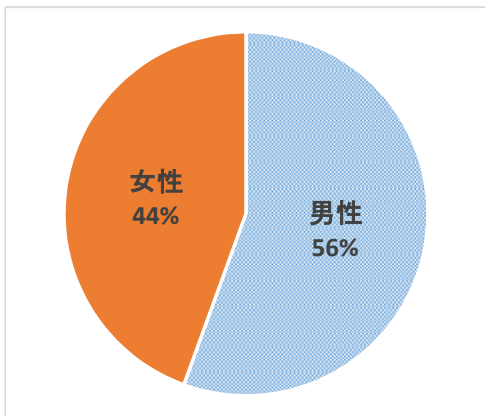
* 令和元年度より、個人単位で居宅介護等を利用するグループホーム類型に対応する事業所へ移行

利用登録者数 :144名(平成30年度比:76名)

1. 利用登録者状況

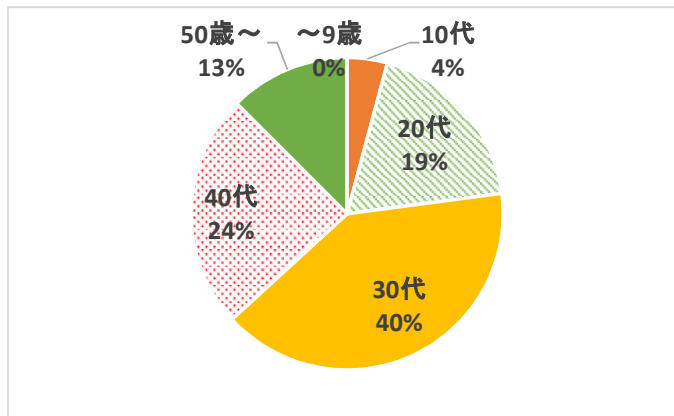
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	80	64



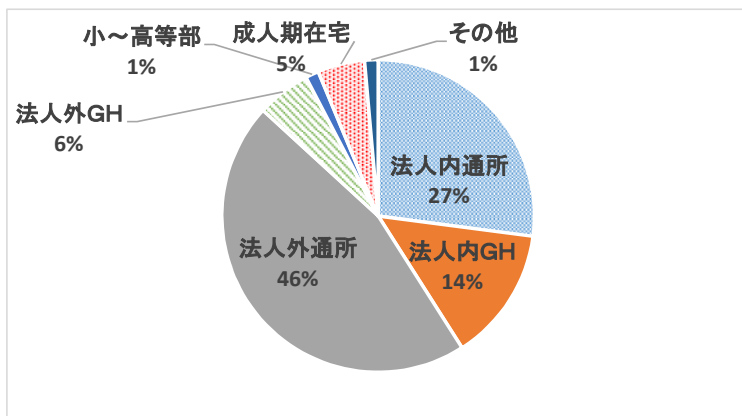
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	6	27	58	35	18



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	39	20	66	8	2	7	2



2. 利用状況

(単位:時間)

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
居宅介護	9,129.5	9,961.5	4,932.5
(うち、GH利用数)	6,298.0	6,986.5	0.0
重度訪問介護	0.0	0.0	1,382.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
行動援護	256.0	157.0	0.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
同行援護	176.5	97.5	666.5
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
移動支援	4,244.5	4,110.5	11,505.0
(うち、GH利用数)	764.0	488.5	1,770.0
合計	13,806.5	14,326.5	18,486.0
(うち、GH利用数)	7,062.0	7,475.0	1,770.0

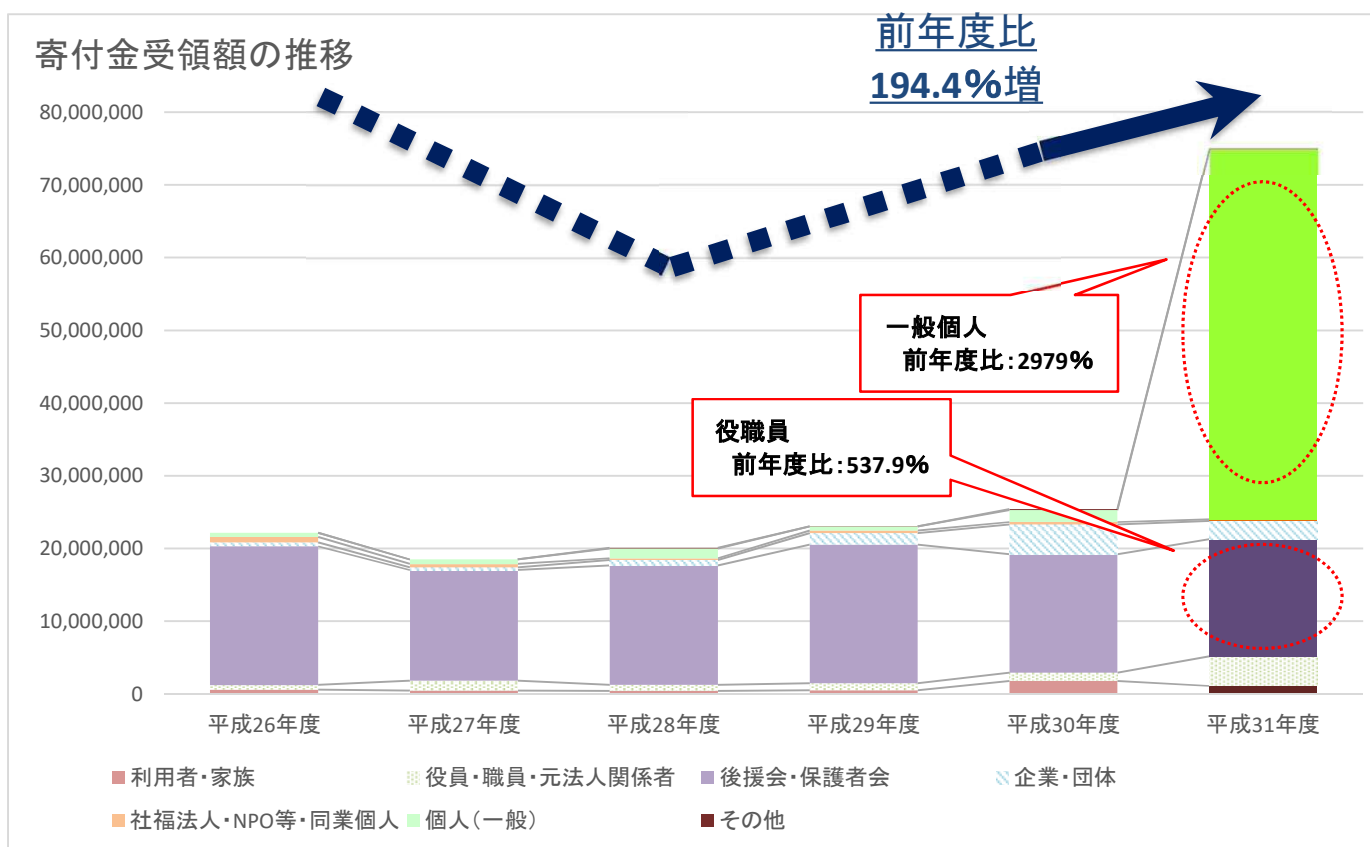
○備考

- ・登録者数の推移
28年度 64名
29年度 68名
30年度 68名
31年度 144名

3 寄付金受領状況

□ 寄付金の推移

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	前年度比(%)
寄付金額	22,171,626	18,492,805	20,095,621	23,051,091	25,447,486	74,979,785	194.6%
(内 訳)	利用者・家族	601,376	462,159	428,000	525,902	1,118,916	-36.6%
	役員・職員	625,055	1,312,629	835,968	542,454	3,949,000	537.9%
	元法人関係者	10,000	25,000	0	406,657	577,982	-83.3%
	後援会・保護者会	19,069,020	15,238,055	16,390,286	19,066,618	16,110,578	-0.9%
	企業・団体	512,500	370,000	742,808	1,587,342	4,090,300	-38.9%
	社福法人・NPO等	621,355	171,716	152,352	152,583	54,000	20.0%
	個人(同業関係)	150,000	300,000	100,000	170,000	270,000	-32.2%
	個人(一般)	582,320	613,246	1,354,070	586,205	1,652,588	2979.0%
	その他	0	0	92,137	13,330	164,060	-47.4%



(年度毎での特記事項/特徴点)

- ・遺贈寄付受領のため、寄付総額が大幅に増加した。
- ・遺贈寄付分を除くと、前年度比で2.1%減少も一昨年度よりは増加。
- ・参考までに、前年度はコペル衛生設備等改修工事の資金調達を行うため、メディア等を活用した寄付募集を実施。
- ・また、職員より車輛寄贈を受けたことが影響し、前年度より大幅に増加したことも特徴

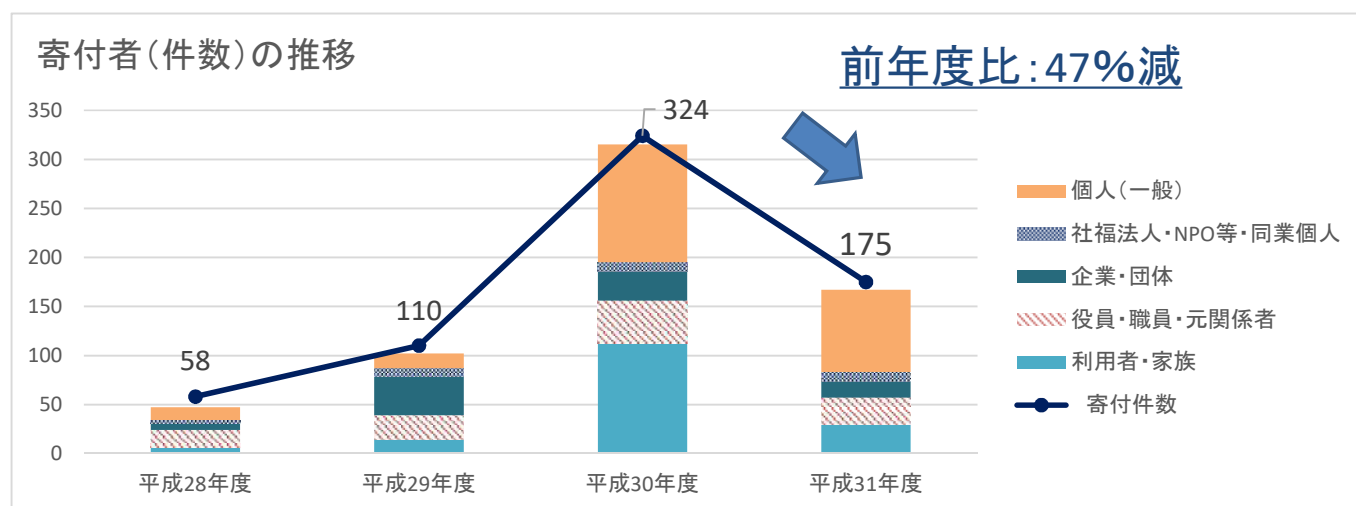
□ 寄付者の推移

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
寄付件数	82	73	58	110	324	175
(内訳)						
利用者・家族	12	10	6	14	112	29
役員・職員	17	17	18	17	31	18
元法人関係者	1	2	0	8	13	10
後援会・保護者会	13	11	7	6	7	7
企業・団体	8	8	7	39	29	16
社福法人・NPO等	10	5	2	5	1	3
個人(同業関係)	2	4	1	4	9	7
個人(一般)	19	16	13	15	120	84
その他	0	0	4	2	2	1

(注記)

・同一の寄付者が複数の事業所に同日又は別日に寄付をした場合を含め、「述べ」で件数をカウントした。

※平成25～27年度



□ ドナーレンジチャート

【平成30年度】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ～	6人・団体	4,141,982円	1.9%	45.9%
50,000円 ～ 199,999円	32人・団体	2,436,000円	10.2%	27.0%
10,000円 ～ 49,999円	124人・団体	1,834,158円	39.4%	20.3%
5,000円 ～ 9,999円	55人・団体	318,880円	17.5%	3.5%
1円 ～ 4,999円	98人・団体	288,257円	31.1%	3.2%
計	315人・団体	9,019,277円	100.0%	100.0%

【平成31年度】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ～	10人・団体	56,438,481円	6.0%	96.0%
50,000円 ～ 199,999円	10人・団体	866,000円	6.0%	1.5%
10,000円 ～ 49,999円	72人・団体	1,192,578円	41.9%	1.9%
5,000円 ～ 9,999円	28人・団体	165,786円	16.2%	0.3%
1円 ～ 4,999円	47人・団体	119,990円	28.1%	0.2%
計	167人・団体	58,782,835円	100.0%	100.0%

※ 後援会、保護者会、職員会からの寄付金は除く

5 補助金等収入内訳

N o	名称	分類	補助目的	金額 (円)	受入先 (部門名)
1	仙台市障害福祉サービス事業所等衛生用品緊急調達事業補助金	行政	物品等調達	120,000	その他
2	仙台市重度重複障害者等受入通所施設等運営費補助金	行政	職員加配	27,366,000	日中活動支援
3	仙台市重症心身障害生活介護事業費補助金	行政	事業運営費	13,008,000	日中活動支援
4	仙台市民間社会福祉施設運営費補助金	行政	利子補給	20,160	日中活動支援
5	仙台市障害者家族支援等推進事業補助金	行政	事業運営費	43,876,200	地域生活支援
6	同(医療レスパイト)	行政	事業運営費	116,100	地域生活支援
7	仙台市移動支援事業補助金	行政	事業運営費	27,358,952	地域生活支援
8	仙台市重度障害者入院時コミュニケーション支援事業助成金	行政	事業運営費	38,319	地域生活支援
9	特定求職者雇用開発助成金	行政	職員加配	135,000	その他
(合 計)				112,038,731	

※前年度比：△13.6%

5 地域における公益的取り組みに関する状況等

平成 28 年改正社会福祉法第 24 条第 2 項の規定に基づき、平成 28 年 4 月から、「地域における公益的な取組」の実施が法人の責務として位置づけられました。当法人としても、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウ、地域の関係者とのネットワークを活かしながら、当該取組の実践を通じ地域社会へ貢献していきます。今年度の取り組みについては以下のとおりです。

取組類型	取り組みの名称 (対象者)	目 的	成 果
地域の要支援者に対する配食、見守り、移動支援等の生活支援	お助け隊の派遣 (独居高齢者)	バザー品改修と同時に自宅の方で毛のお手伝いを無償で提供する。	延べ 8 件の依頼に対して対応。
	かけこみ 110 番の家 (地域小学校の児童)	地域学区の「かけこみ 110 番の家」に登録	登録事業所付近は、店舗も少なく該当もまばらなため、地域の小学生の安心につながる。
地域住民に対する福祉教育	手つ学カフェ (地域住民・福祉関係者)	地域福祉課題について地域住民・団体との対話と学び合い	災害時要援護者の個別避難支援計画を共有することで、災害の要援護者に対する地域理解を深めた。
	親子・小学生クッキング (近隣の未就学児 小学生の親子 地域学区の小学生)	生活介護事業所で近隣の親子とともに菓子屋やパン作りをすることにより、しょうがいのあるかたを身近に感じてもらう	毎回定員を超える申込があり、活動をとoshいしょうがい理解につながる。
その他	生活困窮者に対する就労体験実習（生活困窮者） 就職氷河期世代への就職相談（就職氷河期世代）	様々な要因で就業の機会から離れている方に対して、就労体験の場を提供し、一般就労に向けた支援を行う。 またハローワークで実施するミニ相談会に参加し、職業相談を実施した。	仙台市生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」を通して 1 名の生活困窮者に対して福祉の職場見学、体験実習を行う。 ミニ相談会では 9 名（うち 5 名が就職氷河期世代）への就職相談へ対応する。

上記取り組みの他、地域向けサロンやイベントを通じ地域の関係者とのネットワーク作りを行い、地域課題の掘り起こしと課題の検討及び情報交換の機会を各事業所で持ちました。今後も新たな地域ニーズに対して積極的に対応していきます。

6 平成31年度 法人会議・委員会実施状況 補足資料

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
主要会議	経営会議	・事業の遂行管理、財務状況等の確認や方針決定 ・行政要望事項の検討 ・介護員養成研修事業の実施に向けた諸案件の検討 ・消費増税、特定処遇改善加算等への対応検討 ・諸規程の改廃、寄付金募集と拡充に向けた取組み検討、他	諸案件の決定	レスパイト事業における今後の展開など	12回	
	経営戦略検討会議	中期経営計画の策定を目的に ・社会情勢、福祉・社会保障等の動向確認 ・潜在的、顕在化された社会課題や法人が抱える諸課題の把握 ・諸課題への改善策の検証と改善により得られる成果や社会的影響 ・成果を得るための戦略や他機関との協働、連携等	法人内「地域生活支援諮問委員会」からの意見集約や後援会役員との意見交換および宮城県社会福祉協議会による専門相談事業の活用等を経て、中期経営計画中間案を策定	最終案策定に向け、各行動プランの精査及び緊急性・重要性の評価を行い、個々の成果測定方法の事前設定、進捗管理方法などの確認を行うこと	8回	
	人事委員会	・職員人事全般 ・メンタル不調者の休職及び復職判断 ・その他、職員処遇及び賃金等の見直しなど	諸案件の決定	・常勤及び非常勤職員等の処遇改善や評価方法等の検証 ・職制や勤続年数等に応じた研修体系の見直し	22回	
	法人衛生委員会	・各事業所における衛生推進への取り組み共有 ・腰痛対策、職員健康診断の総括 ・メンタルヘルスクア、労災原因の検証、感染予防対策など	諸案件に関する全体共有	特になし	9回	
	コペル衛生委員会	・定期健康診断の結果に対する対策(労働安全衛生法に定める事項など) ・腰痛対策、受動喫煙実施、熱中症対策等 ・インフルエンザ・新型コロナウイルスなど感染症対策 ・業務整理、ストレスをためない生活など	委員会で話し合われた内容を職員に周知したことで、熱中症・ノロウイルス等は予防できた。インフルエンザについては、罹患者が多く、休館となったが、蔓延することはなかった。職員の健康に対する意識も徐々に高くなってきた。	・令和元年度協議事項の継続検討(受動喫煙、長時間労働、労災対策等) ・労働者の精神的健康の保持増進を図っていく。	12回	
	権利擁護・虐待防止委員会	虐待防止及び利用者の権利擁護を主たる目的とした内部研修等を開催。『虐待防止とその対応に関するガイドライン』の周知と理解促進など	ガイドラインの共有と内部研修会の実施。研修会を実施することで、日々の支援に関する振り返りができる。日本知的障害者福祉協会人権倫理委員会発行「人権擁護の基本姿勢」を職員に配布。	内部研修の実施及びガイドラインの共有については、継続して実施。利用者と一体的に取り組める事項(選挙に関すること、しょうがい者週間に関することなど)を検証・実施する。	4回	
経営会議系列	事業運営会議	・各事業所の事業運営状況や課題等の共有、検証 ・勤怠管理システム本格運用へ向けての課題等の共有 ・財務状況の把握と課題検証 ほか	経営会議へ連動、課題への取り組みと実践。勤怠管理システムの本格運用		12回	
	防災委員会	・BCP策定及び検証、法人内施設避難所、無線機の検討、防災意識の向上等	・無線機(ICOM)の課題を検討・精査し、新たな防災ネットワークを構築(IPAD・LINEWORKS導入)・ICOM機器の返還・無線訓練に防災ネットワーク反映・備蓄品更新・各種マニュアルの確認、周知 ・市主催のBCPセミナー参加(3回)・大規模災害マニュアルの改訂・各所消防計画の確認	・防災ネットワークのマニュアル作成 ・福祉避難所についての課題の抽出 ・BCP(事業継続計画)からBCMへの移行 ・無線訓練の課題 ・法人防災訓練の刷新(BCM含め) ・各地域防災計画との連携	7回	※臨時2回
	職員研修委員会	各研修の実施計画、役割分担(講師との打ち合わせ、会場調整、講師への礼状等)、実施した研修の振り返り、研修報告書(復命書)の取りまとめ、次年度の研修計画の検討等	選択研修は少人数で対話型の講義となり、登録ヘルパー等の主体的な参加も見られた。非常勤等職員研修では人権に関する講演に感銘を受け充実した研修となった。	非常勤等職員研修は土曜開催としたが、子育て世代職員の参加が難しく受講者数が低迷した。講義によっては講師が午前午後2回講義となり負担感あり。	6回	
	日中活動支援事業部連絡会議	○日中活動支援事業部各事業所の情報共有など ・利用者、職員等に関する特記 ・各事業所の課題検討 ・職員交換研修の企画・実施 ・各事業所行事への職員派遣(イベントゆいまー)の企画・実施 ほか	・各事業所の利用者・職員・事業所状況の共有により、他事業所の状況をタイムリーに把握 ・職員交換研修:20名が2日～5日間別事業所で研修 ・イベントゆいまー:各事業所のイベントに応援参加(計5回に12名) ・毎回、市内の喫茶やレストランを持つ障害福祉サービス事業所(ノキシタ・桜蔵・ボッケの森など)にて実施したため、他法人事業所の事業運営などを学ぶ場にもなった ほか	・次年度も『日中活動支援事業部検討会議』とは内容を分け、情報共有などを継続 ・職員交換研修、イベントゆいまーの継続 ・先進事業所研修を事業所間の職員合同で行なえるよう企画・実施 ほか	11回	
	地域生活支援事業部連絡会議	地域生活サポートセンター管理者間及び管理者-部長間の情報交換、共有	各事業の現状の把握、課題検討をすることができた	次年度も定期的に開催することで、管理者間の情報交換、共有を図る	11回	

事業運営会議系列	レスパイト事業検討会議	・事業の諸課題について検討(職員、介護人処遇改善等) ・レスパイト連協への対応(法人意見の集約と整理) ・3事業所間の情報共有と個別ケース検討など	・レスパイト業務時間の改善、現場職員交換研修の実施、介護人雇用化。 ・利用者向けレスパイト連協共通の利用の手引き作成。 ・3事業合同介護人連絡会開催(JAF車両取り扱い講習会) ・自家用車による送迎の廃止	・職員、介護人育成について連絡会等の研修の実施の強化 ・レスパイト事業の今後について	11回	臨時開催追加実施5回
	ヘルパー 事業検討会議	・ヘルプ事業再編後の振り返り ・びぼっところにおける特定事業所加算取得への取り組み	・ヘルプ事業再編後の各所の動向について共有することができた。 ・べんたす職員の在所時間や移動時間などの労働環境に関連する課題提起ができた。 ・次年度の会議の議題を決め、より具体的な取り組みや解決策を話し合う場の土台作りができた。	・ヘルパー職員への自家用車使用手当の対象拡大 ・非常勤や登録ヘルパーの確保 ・運営・経営面について	3回	
	相談支援事業検討会議	・各事業所、区の状況や取り組み等情報共有 ・ケースや業務量の負担の増加、地域の課題とともに相談員自体の育成とラインケアの方法の検討	・『つどいの家 相談支援事業の未来に向けて』の全員参加のGW ・各所の取り組みの情報共有による活用	・ソフト導入による業務負担の軽減 ・研修計画による人材育成とラインケア ・地域活動への取り組み	3回	
	日中活動支援事業検討会議	・生活介護事業所における送迎協力金の算出根拠の共有 ・生活介護事業の重要事項説明書の改訂と内容整理 ・第三者評価の実施について ・食材費の高騰に伴う給食費の見直しについて	・重要事項説明書の改訂(文言の整理と統一、第三者評価の有無を追加) ・総務部とも協力し、給食費の見直しを事業運営会議に提案。令和2年度から利用者の給食費を見直すこととなった。(310円⇒340円)	・重度障害者支援加算の具体的運用 ・食事提供体制加算の制度動向を踏まえた給食費の再度見直し ・送迎協力金の算出根拠の一部共通化 ・自己点検チェックシートの実施 ・報酬改定の動向把握と対応検討	5回	第3回会議(令和元年11月開催)に総務部職員も参加。
	居住支援等事業検討会議	グループホームが抱える運営面等に関する諸課題の整理	今年度は諸課題を整理することはできたが、具体的な取り組みを行うことはできなかった	今後のグループホーム開設に向けた課題(開設時期、定員、勤務シフト等)の検討	2回	
情報交換・連絡会	食事サービス従事者連絡会	食事提供のサービス向上を図るため、従事者および管理者間との情報共有と情報交換	・食材費の仕入れ先の情報交換や普段の業務の悩みなど共有し、話し合った内容を参考に業務に取り入れている。 ・衛生管理方法について共有 ・消費税改定後、食材費高騰。給食費値上げに踏み切る(食材費は報酬改定の際に見直しをしていく)・利用者に合わせた調理法や食材カットの仕方などを参考に取り入れる。	・食事サービス担当者間で、情報交換と課題整理を行いながら、安心でより豊かな「食の楽しみ」を提供できるよう連携していく。 ・給食を安定的に提供できるか ・厨房の人材確保 ・厨房器具の維持管理	2回	
	PT・OT連絡会	・3事業所での問題点、改善点検討 ・ケースを持ち寄り意見交換、研修報告など	アセスメントの技術向上、新しい車いすや機器の情報共有	メンバー2名が退職したため次年度は当面休会	1回	
	看護師連絡会	・各事業所の健康診断とその結果報告 ・感染症対策、予防接種についての情報交換 ・各事業所の健康状況及びヒヤリハット報告、情報交換 ・看護師交換研修の日程調整、研修報告	・他事業所の保健に関する共有と、専門的な情報交換・知識向上の場となっている。 ・令和2年2月実施の事業運営会議に下記を提案し、了承された。 ①グループホームにおける感染症の予防と衛生管理について ②看護師の交換研修について ③看護師連絡会発の研修実施について(生活介護職員対象)	・連絡会の中で協議事項が多い場合は連絡会の開催時間を長く確保する。又は、必要に応じて臨時の法人看護師連絡を開催する。	4回	
	サービス管理責任者連絡会	・個別支援計画進捗状況等確認 ・重要事項説明書の整理 ・各事業所における緊急時対応マニュアルの情報共有 ・困難事例検討 ・重度障害者支援加算の状況確認 ・情報交換	・情報共有のほか、重要事項説明書の整理を行い統一を図った。	・各事業所におけるサビ管業務の確認 ・各自事業所共通仕様書式の確認 ・日中支援における課題共有・検討	3回	
	日中活動チーフ連絡会	・第1回、「社会福祉法人つどいの家」について、ストレングスや魅力についての座談会を行い、今後の法人の在り方について意識付けの機会をと狙いを立てた。 ・第2回、人材不足の現状を踏まえて、それぞれが出来ることについて考える機会。業務効率の上げ方など意見の抽出を行った。	・今回の日中チーフ連絡会では座談会形式での話し合いを行い、様々な観点からの意見、それぞれの状況などの聞き取りは行えたように思うが、課題は多く出ても解決策や今後についての結論とといった部分には至らなかった。	・会の進行含めて目的をきちんと見据えての提示、結論を導くところが足りなかった。 ・どんな話をしていくか、各チーフへの聞き取りや話し合いを行う目的をしっかりと持ち取るか、継続をするのであれば意義も必要かと思われる。	2回	
	南北グループホーム連絡会	入居者が利用する生活介護事業所等の職員間の情報共有等	入居者に関する情報共有及び生活介護事業所、グループホームの現状等について把握することができた	次年度も定期的に開催することで、職員間の情報共有を図る	各ホーム2回	
	総務ミーティング	・業務における情報の共有 ・抱えている課題の共有・検討 ・新たな知識、視点等得るための情報等の提供 など	・事務業務ならびに、法人経営・事業の円滑化。 ・支援者管理及び勤怠管理ソフトの研修会(トレーニング)の実施。 ・総務における中長期的課題の抽出。	・新たな知識や視点を得るための研修等の実施。 ・総務における中長期的課題への取り組み。 ・支援者管理システムの本格的な活用等々。	34回	